

令和 5 年度発達障害児者地域生活支援モデル事業

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事業 報告書

2024 年 4 月

社会福祉法人グロー 滋賀県発達障害者支援センター

目次

第1章 事業概要	4
1-1 本事業の経緯	4
1-2 事業目的	4
第2章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修	6
2-1 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施.....	6
2-2 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事後のアンケート調査	9
第3章 ニーズ別研修	19
3-1 ニーズ別研修の事前アンケート調査	19
3-2 ニーズ別研修の実施	23
3-3 ニーズ別研修の事後アンケート調査	29
第4章 ペアレント・トレーニングファシリテーター フォローアップ研修	32
4-1 フォローアップ研修の実施	32
4-2 フォローアップ研修事後のアンケート調査	33
第5章 人口規模の小さい町でのペアレント・トレーニングの実施	35
5-1 保護者説明会の実施	35
5-2 湖東圏域4町担当者向け説明会	36
5-3 湖東圏域4町合同でのペアレント・トレーニングの実施	37
5-4 湖東圏域4町担当者・療育教室との振り返り会	40
第6章 ペアレント・トレーニング実施検討市町へのアドバイザー派遣	43
6-1 R町へのアドバイザー派遣	43
6-2 アドバイザー派遣後の動き	43
第7章 ニーズ調査	44
7-1 ニーズ調査の概要	44
7-2 ニーズ結果のまとめ・考察	54
第8章 今後の方向性について	56
8-1 ファシリテーター養成研修、フォローアップ研修、ニーズ別研修の実施	56
8-2 ペアレント・トレーニングのオンライン研修実施に向けた検討	56
8-3 市町が継続的にペアレント・トレーニングを実施するために	56
付録 ニーズ別研修資料	57
【参考資料】	67

第1章 事業概要

1-1 本事業の経緯

発達障害児者への支援のための体制整備において、滋賀県では、2019年度より発達障害者支援体制の充実を図る取り組みの一つとして、発達障害のある子どもの養育経験がある親をペアレントメンターとして養成し活用する事業を行ってきた。

2021年度には、親が子どもに対する、より良いかかわり方を身につけ、そのかわりによって子どもの発達を促進するペアレント・トレーニングの普及に焦点を当てることとし、この年に「ペアレント・トレーニング市町担当者研修（前期・後期）」を実施した。2022年度より、国のモデル事業を受託し、地域における発達障害児の子育てに悩む保護者が、身近な地域で子育ての仕方について学ぶことができるためのペアレント・トレーニングの実施方法や、これを実施できる人材育成の方法を目的として「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成事業」を実施することとなった。

モデル事業1年目は、県内19市町への訪問調査・電話での聞き取りを実施し、各市町で実施されている家族支援事業、その中でもペアレント・トレーニングを実施されているかどうか、実施されている場合は、対象や人員体制、内容及び実施方法を把握することに努めた。また、ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・フォローアップ研修を実施し、県内19市町のうちの6割超の自治体の参加を得ることができた。

このことにより、基本プラットフォームに基づく実施について理解が進んだこと、市町担当者との交流により、お互いの市町の状況を知り、情報交換がしやすい雰囲気が生まれた。市町担当者の横断的なネットワークの形成につながったことは成果であった。

1-2 事業目的

モデル事業2年目は次の3つの目的を設定した。

① 各市町にペアレント・トレーニングを実施できる人材を育成すること。

この目的を達成するために1年目に引き続きペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修を実施する。事業を継続して実施していくためには、市町の担当者が複数名の体制で事業を展開していくことが必須であり、ファシリテーターの人員を増やすことが重要と考える。1年目の調査の中で、ペアレント・トレーニングを活用する場が療育教室の保護者を対象とする場合も想定されており、庁内連携が大切であることを確認している。そこで、市町センター職員だけでなく、療育教室の担当職員等にも参加を呼びかける。

また、研修を受けたからといって、すぐに実施に繋げることは難しく、実際にやっていく中で様々な疑問や悩みが生じてくるものである。1年目の調査からも、所内や所外に事業に関する相談ができる相手やアドバイザー的な存在があることが、継続的な実施に有効であることが分かっており、今年度はニーズ別研修を実施する。フォローアップ研修が、支援者にとって、ともに

学び、サポートしあえる機会となるようにしていきたい。

② 人口規模の小さい市町においてペアレント・トレーニングを実施しやすい体制づくりについて検討すること。

具体的には、湖東圏域(4町)にて県センターが主催してペアレント・トレーニングを試行的に実施する。

③ 市町へのアドバイザー派遣

前年度に引き続き担当者がペアレント・トレーニングの必要性や有効性を感じているが、市町の中で周知、共有されていないことで、予算化、事業化されず実施にいたっていない現状があるため、導入検討段階にある市町へ、引き続き、アドバイザー派遣を行うこととした。

第2章 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修

2-1 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の実施

参加者には、まず事前学習としてWEB オンデマンドで「ペアレント・トレーニングの基礎知識&基本プラットフォームとは」（講師：岩坂英巳氏 講演約 1 時間）を視聴いただいた上で、2 日間の集合型研修で実施した。

研修で使用したテキストは、厚生労働省障害者総合福祉推進事業で作成された「ペアレント・トレーニング実践ガイドブック」（2019 年度）・「ペアレント・トレーニング支援者用マニュアル」（2020 年度）を使用した。

2-1-1 研修内容

目的：市町においてペアレント・トレーニングを実施・推進することができる人材を養成する。

日時：1日目 2023 年 7 月 4 日（火）10:00～16:00

2日目 2023 年 7 月 18 日（火）10:00～16:00

場所：キラリエ草津 草津市立市民総合交流センター（草津駅から徒歩5分）

〒525-0032 滋賀県草津市大路二丁目 1 番 35 号

講師：鳥取大学医学系研究科臨床心理学講座 井上雅彦教授

ファシリテーター：小池由香里氏[公認心理師・臨床心理士]

望月基子氏[公認心理師・臨床心理士]

対象者：各市町の障害福祉課、発達障害者支援室・センター職員・児童発達支援センター、療育担当者・その他県や市町で発達障害児支援に関わる者、各市町 1 名～2 名。

日程：

1 日目 2023 年 7 月 4 日（火）10:00～16:00

時 間	内 容
9:30～10:00	受付
10:00～10:10	・開会 ・あいさつ ・オリエンテーション
10:15～11:00	・井上先生講義 「ペアレント・トレーニングの概要」
11:00～12:30	・各市町から報告 （参加の動機、昨年度からの経過や課題、療育教室との連携状況について） ・各療育教室から報告 （参加の動機、保護者グループでの活動について、市町の報告を受けてコメント等）

	・井上先生からコメント
12:30~13:30	昼休憩
13:30~15:00	・演習 (20分ロールプレイ、10分振り返り×2、随時休憩) *2グループ *ファシリテーター、サブファシリテーター:経験のある市町の方をお願いする *参加者多数の場合、複数で参加している市町、療育のところは見学の可能性
15:00~15:10	休憩・移動
15:10~15:40	・まとめ *井上先生より *小池氏、望月氏より
15:40~15:50	・センターより今年度の取り組みについて *ニーズ調査について *湖東4町でのペアトレ実施について
15:50~16:00	・事務連絡 ・アンケート記入

2日目 2023年7月18日(火)10:00~16:00

時 間	内 容
9:30~10:00	受付
10:00~10:15	・開会 ・オリエンテーション
10:20~12:00	【演習】 (20分ロールプレイ、10分振り返り×2、随時休憩) *3グループ *グループによって、ファシリテーター、サブファシリテーターを体験
(時間未定・30分程度)	(井上先生と質疑)
12:00~13:00	昼休憩
13:00~14:40	【演習と情報交換】 (20分ロールプレイ、10分振り返り×2と情報交換、随時休憩) *3グループ

	＊グループによって、ファシリテーター、サブファシリテーターを体験 ＊グループごとに情報交換の時間あり
14:45～15:30	・全体での振り返り、情報交換の内容について共有、質疑応答 ・小池氏・望月氏よりまとめ
15:30～15:50	・ニーズ調査についてのお願い
15:50～16:00	・閉会、事務連絡 ・アンケート記入

2-1-2 研修参加者

各回の参加者数及び参加市町数は以下の通りである。

第1回 7月4日に11市町1機関 22名参加。

第2回 7月18日に11市町1機関 20名参加。

全日程参加者は11市町1機関 17人。

※機関…県立の小児科病院療育部

参加者に関する基本情報は表1～表5（＊全日程参加者の状況）

表1 職種

心理判定員	5
公認心理師	2
心理士	3
園長	2
幼稚園教諭	1
主査	1
指導主事	1
ことばの教室指導員	1
保育士	1

表2 経験年数

1年未満	3
2年～5年	5
6年～9年	4
10年以上	5

表3 PT 養成研修受講経験

有	3
部分受講	1
無	13

表4 PT 実施経験

有	1
同席または見学	7
無	9

表5 【参加理由】

- ・保護者グループの中で、子どもの発達や特性に合わせた支援や介入の方法を学ぶ必要があると感じる。ペアトレのファシリテーターに関する理解を深めることで、保護者へのより良い支援体制の構築に繋げていきたい。
- ・次年度より、当市ペアレント・トレーニングに参画していく可能性があるため。
- ・本研修を受講することでペアレント・トレーニングについて学んだ上で町の幼児期の保護者支援について検討するため
- ・他市町の実践状況などの意見交換を行いながら、本町の支援体制の充実を図りたいと考えたため

2-2 ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事後のアンケート調査

2 日間の研修修了時に、参加者にアンケートの記入を依頼した。項目は以下の内容である。

2-2-1 アンケート項目

1. (1 日目) 講義について
2. (1 日目) 演習(ロールプレイ)について
3. (1 日目) 次回、情報交換で取り上げて欲しいテーマがあればご記入ください。
4. (1 日目) 会場や運営、その他お気づきのことがあればご記入ください。
5. (2 日目) 研修の内容について、2 日間の研修を通してのご感想をお聞かせください。(4 尺評価)
6. (2 日目) 実際にロールプレイを体験(もしくは見学)することで、どのような気づきがありましたか
7. (2 日目) 今後、事業として展開するにあたり県や発達障害者支援センターからどのようなフォロー、バックアップ体制があると良いですか(事業として展開するご予定のない市町からも、是非ご意見をお聞かせください)
8. (2 日目) その他、ご意見ご感想ありましたらご記入ください

2-2-2 研修事後のアンケート結果

表1 【1 日目】講義について

1. 井上先生から直接(リアルタイム)で講義して頂ける機会がありました。わかりやすく、要点を理解できました。質疑応答がとてもスムーズかつ全体にとっても実りあるものだったと感じます。実際の PT でも、こんな風に全員が発言しつつ聞くという雰囲気があるとよいのかなとも考えさせられました。

2. 1日ありがとうございました。半日の参加となつてしまい、申し訳ありません。普段のペアトレを改めて見つめなおすことができ、よい機会をありがとうございました。
3. 演習をもって学ぶことができ、具体的で分かりやすかったです。他の市町と情報交換やアドバイスなどをもらえたので助かりました。
4. とても分かりやすく、ポイントもしぼってあったため分かりやすかったです。実際どう声掛けされているかを知ることでもできて良かったです。
5. 実際にやってみると、グループ編成、時間配分、進め方など難しいところがたくさんあると思いますが、やってみることが大切というお話と、知的障害の有無、年齢のばらつき等があっても問題はないというお話を聞いて、自分にも取り組めそうかなと思いました。
6. 講師とのやりとりの時間がある、内容が具体的である、話を聞きやすいペースで進めてくれるといった、とても理解しやすい内容でした。
7. PTの基本プラットホームについて共通の土台、必須の3本柱の理解を深められた。特にコアエメントの6要素を大事に考えたい。
8. ペアレント・トレーニングとは何なのかということがよくわかった。実際に市の療育教室で実施しているので、講義での学びと実際のとりくみを見学して学びを深めていきたい。ファシリテーターとして取り組んでいる心理士がペアトレについて以前話していたこと、今日の講義の内容が結びついた。いろいろなタイプの保護者がいるが、席順や話す順を考えていくとよいなど具体的なことも学べた。
9. 大変分かりやすかったです。PTの場面で実際の保護者のニーズや一人ひとりの方の様子など、思い浮かべながら話を聞くことができました。基本理念について十分意義が理解できているとはまだ言い難いですが、実際のPTの仕組み実践する中で理解を深めていくのだろうと予想しています。
10. これから導入を考えている、あるいは導入できるかを考えているという段階であっても、具体的に進めていくための回数や大切なコアな部分についてもおさえていただき、ありがたかったです。
11. とても分かりやすく聞くことが出来ました。
12. 具体的な内容を含めて説明を聞くことができたので、分かりやすく大変勉強になりました。実際にペアトレに取り組んでおられる市町の方のお話を聞くことができたことも良かったです。
13. ペアレント・トレーニングという言葉は聞いたことがありましたが、そのような内容ややり方なのかあまり知りませんでした。今回、具体的な進め方を詳しく教えて頂き、イメージが掴めました。実際の進め方のスライドやHWもあり、とても分かりやすかったです。
14. ペアレント・トレーニングの基礎が理解できました。各市町さんでの取組みも聞くことができ、また取り組む中での課題も知ることができたのでよかったです。“ほめること”を保護者と共有していく大切さが分かりました。
15. 先生のお話がとても聞きやすかったです。具体的にこういう時はこう声掛けすると良いなどのヒントも教えて頂き、実践への導入の参考になりました。

16. 井上先生の体験も交えてお話を聞くことができ、とても勉強になりました。どうして宿題が必要なのか、ワークの意義(答えを探す必要はない)など、お聞きすることができ、グループでワークをしていく際に大切なことを教えて頂きました。
17. 地域でPTを実施する時に悩んでいた点であって人口の少ない自治体で対象者をどのように募っていくかについての見解がうかがえたので良かったです。
18. 市ではすでにペアトレを始めていますが、改めて留意点など確認できました。効果測定はしていますが、上手く活用できていないのでアセスメントに使っていきたいです。
19. 今現在していることだったので自分や現場に引き付けて聴いたり考えたりすることが出来ました。

表2【1日目】演習(ロールプレイ)について

1. 雰囲気、留意点がよく伝わってきた。演習を重ねて一緒に学べれば。
2. 周りの方のコメントへの反応がやさしくて良かったです。
3. あまり、ワークをしないことが多いので新鮮な気持ちで取り組みました。ありがとうございます。
4. 今年度よりペアトレを始めるため、すでに実施されている市町村の方のやり方を学ぶことができて良かったです。
5. 保護者さんの話によってはあいづちやフィードバックにも難しさがあるなと思いました。ファシリテーターの声のトーンや言い方によっても反応や受け取る印象は異なるものがあるなと思いました。ファシリテーターの雰囲気づくりについても理解を深めたいと思っています。
6. やってみて気づくこと、他の人の意見に納得することがたくさんあっておそらく保護者さんたちもそうなのだろうと思いました。ファシリテーターの役割は重要で、保護者さんの意見のよいところをうまく吸い上げたり話しやすい雰囲気を作ることの大切さを感じました。
7. やはり演習によって具体的なイメージが深まりやすく効果的な進め方だと改めて感じました。やさしく語りかけるような口調でだれもが安心して自分の素直な思いを語れる雰囲気づくりを大事にしたい。
8. 保護者を対象としたプログラムを実践されているだけあり、とても参加しやすい雰囲気づくりが上手いと感じました。井上先生の対応も自然で良かったです。会場でいろいろと進行して下さったスタッフの方々がとても安心感がありました。
9. ファシリテーターの声、話し方、視線、間、返答(受け方)によって参加する者が話しやすいのか話にくいのか影響すると思った。はじめにどんな雰囲気でそのようなはじまりで話し出すのかなどが難しいと感じた。これは実施していくとうまくなるものなのかな。もともとその人のもっている人間性も大きいような気がします。(観察しながら感じたことです)架空のこととして保護者役での参加は自分の話したいことを受けとめてもらえたり、共感してもらえたりすることで気持ちは救われたような気になった。
10. よく分かりました。特に保護者からの反応に対してどのように返していく事が安心感や共感につながるのかが参考になりました。

11. 保護者役をしながらファシリテーターの動きを見せて頂けたことやワークをやってきたことで、実際にこのシートっていつ配るといいんだろう?等実践されている市町さんからの素朴な疑問がきけ、それについてのご意見をうかがえたことがとても勉強になりました。
12. 親役を経験できたのは貴重なことでよかったです。「とても楽しい」と感じたし、また次回もあると思うと楽しみだなと思えました。
13. 参加者(保護者)役として参加することは無かったので、とても新鮮でした。実際「他人事だったら出来るけど、自分の子ならむずかしい」は痛感することなので、感じるだけでいいというのは分かって良かったです。
14. ファシリテーターの方のコメントの仕方や保護者さん同士の意見交流の仕方のコツを実際に体験しながら教えてもらうことができてとても参考になりました。
15. 保護者の立場となってロールプレイに参加することで緊張感やファシリテーターさんからコメントを頂くことや子どものことについて話すこと(他者)等、GWを通じて知ることが出来ました。参加されている心理的な不安等も大いに持っている方もいると思うので、そのサポートが大切になってくるのが学べた。
16. いろいろな意見がきけ、視野が広がりました。
17. 参加者の経験をさせてもらうことで、自分の子のことを話すドキドキ感や当てられるかなと緊張する感じも味わうことができ、療育の保護者グループをすすめる際に改めて参加者の思いに寄り添った進捗ができるようにしたいと思いました。今回、架空事例に取り組み、架空ならではの良さ(少し距離もとって考えられる)もあり、あえて参加者の子どもと違う年齢層の事例で練習するのも1つかなと思いました。
18. 他の市町さんのファシリテーターを見て、こういう風に声をかけたらよいのかであったりなど、色々な視点での気づきが得られました。
19. 保護者が記入していたり、ペアで話合っている時にファシリとしてどうするか悩むことがあったので、今回ロールプレイをさせていただいて参考になりました。保護者のコメントの良かったところを意識してフィードバックしていましたが、難しいということをしっかり共有できていなかったことに気づきました。
20. 他市、他機関の方の意見や「なりきって」の話にとっても学びが多かったように思いました。みなさん保護者目線でのご意見がすごくリアルでした。

表3 【1 日目】次回情報交換で取り上げて欲しいテーマがあればご記入下さい。

【ペアトレの運営について】

〈対象者・回数・内容〉

1. 今日の共有で就学前のお子さんをもつ保護者を対象としたPT 実施が多いように感じました。自治体での実施にあたり対象のお子さんの年齢を設定された背景などがあれば知りたいなと思いました。

2. ペアトレの始めた時の状況と現状を具体的に知りたい。(ペアトレを希望される人数推移やファシリテーターの人数や実施場所など)
3. 他市町の具体の実践例
4. グループを組んで行うことが難しい中でされている工夫。回数を極力絞ることで参加できる保護者もおられると思います。回数の工夫をされている市町の状況。
5. 短い時間の中でやっていくには、どの部分を取り上げてやるとよいのか、療育教室でもできる形、こうなるとはいけない、これはしてはいけないといった失敗のパターンがあれば。
6. 異年齢グループでの PT を実施する際、幅はどれくらいまで OK なのか、異年齢グループでの PT を実施している自治体がどれくらいいるのか
7. どのようなタイプの保護者の方に特に効果があったのかなど教えて頂けると嬉しいです。思春期の保護者さんなど子どもの年齢によって中身を変えているのか教えて欲しいです。

〈その他〉

1. このペアトレのネーミング、井上先生は「家庭支援講座」「子育て講座」などと言っておられましたが、他市町の方はどんな名称にされていますか。
2. ペアトレの事前打ち合わせ、事後の振り返りの実施など(なかなか他の相談業務も一緒にしながらもなかなか時間がとれず昼休みに実施することもしばしば) 工夫されていることを教えて頂きたいです。
3. 効果測定(評価)どのようにしているか(フィードバックや活用についてなど)

【各関係機関との連携について】

1. 担当者と申し込みを頂いた方の関係機関との連携について(療育教室とセンター等)申し込みのあった方についても情報を事前にその程度あつめているのかについて

【実際の進め方について】

1. 小・中・高校生に PT を実際にすすめる場合の留意点と支援者用マニュアル使用の留意点(時間が許せば…で大丈夫です)
2. もし質問や共有ができた方がよいことがあれば、事前に教えておいて欲しかったです。現場は兼務もあり、主の担当でないと覚えていないことが正直あります。実践の質問には困ってしまいました。
3. テーマというか、交流の時間があると助かります。フリーではなくテーマに沿って。

表4 【1日目】会場や運営、その他お気づきのことがあればご記入ください

1. とても丁寧で有難かったです。
2. 303号室でもモニターや電子黒板等で画像が見たかったです。
3. 快適にすごせるよういろいろ調整いただきありがとうございました。
4. 駅近くの利便性のいい会場だと思いました。立派な建物で設備等も充実しているように感じま

した。素晴らしかったです。

5. オンラインの研修は難しいところもあると思われるが、とてもスムーズで快適な進行でした。
6. 毎年実施していただけるとありがたいです。市町の発達支援担当の方と会う機会にもなりありがたいです。
7. 建物内での昼食を食べる場所をさがすのに手間取りました。
8. とても受けやすい環境でした。ありがとうございました。
9. とてもきれいな会場で心地よく研修が受けられました。担当の方々もいろいろ配慮いただきありがとうございました。アナウンスも丁寧で分かりやすかったです。
10. 適宜、休憩をとって下さりありがたかったです。ありがとうございました。
11. ロールプレイ緊張しましたが、勉強になりました。ありがとうございました。

【2日目】研修の内容について、2日間の研修を通してのご感想をお聞かせください。

表5 ペアレント・トレーニングの概要を学ぶことができた

	N	%
そう思う	14	74
ややそう思う	5	26
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	19	100

表6 ファシリテーターの役割や、実際の進め方を学ぶことができた

	N	%
そう思う	13	68
ややそう思う	6	32
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	19	100

表7 実際にペアレント・トレーニングを開催する場面をイメージすることができた

	N	%
そう思う	8	42
ややそう思う	11	58
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
合計	19	100

表8 今後、ご所属の市町でペアレント・トレーニングを事業として展開、開催していきたい

	N	%
そう思う	9	47.5
ややそう思う	9	47.5
あまりそう思わない	0	0
思わない	0	0
未記入(実施事業でないためこの項目のみ未回答)	1	5
合計	19	100

表9 【2 日目】実際にロールプレイを体験(もしくは見学)することで、どのような気づきがありましたか

1. 保護者が発言するということは、思っているより緊張感があるのでは?と感じました。ファシリテーターとして、まず安心安全な場づくりがとても大切だと感じました。
2. ファシリテーターとしての相手を認める言葉、褒める言葉をたくさんもっておくことも大切だと感じた。
3. グループワークの雰囲気や実際のすすめ方など、すでに実践されている方のやり方を見させてもらいながら、体験できたので良かったです。一方で、あてられたらどうしよう…やなんて言われるかな…など、その場その場の緊張もあったので、もし自分が運営するとなると、いろいろ配慮と準備が必要だと思いました。
4. ファシリテーターの役割が重要であることがよくわかった。保護者からの意見に対して、自分が答えを出してしまいそうになったり、思わぬ答えが返ってきたりした時、上手く周りに返したり、流したりする力をつける必要があると感じた。
5. コメントや質問を受けることで、新たな気づきにつながることもある。何かを教えるではなく、他の人からの意見を聞いたりしながら、その場で考えることで、イメージが湧く、気づくという体験ができた。
6. 保護者の立場やペース等を考えて、雰囲気を作ることの大切さを学べた。グループでの保護者の発言がネガティブな場合の切り替えや、答えや助言を一気に言ってしまわないことは、PTをする上で留意しておくことが分かった。
7. 自分が参加者という立場になり、発言したい時に発言するのではなく、また発言したくなくとも発言せねばならないこともあり、保護者に与える心的ストレスがなんとなく理解できた。特に話すことが苦手な人に対しては、参加してくれたというだけでも十分に感謝に値することを忘れないでおこうと思った。グループワークは、思考が整理できてよいなと思った。メンタルヘルスに問題がある保護者が参加される場合、このペアトレが本人の病状に大きく影響する可能性もあるので、あまり自分達だけの感覚で進めるのもこわいなと思った。
8. 保護者対象でないので、余裕をもって体験をすることができました。みなさんの意見をきけて、とても参考になりました。

9. いろいろな意見があること。いろいろな返し方があることに気づけました。
10. 保護者側もファシリテーターも同じく緊張していることがわかった。あまり気負わず取り組めたらいいと思う。
11. HW の目的を再確認し、すべきものではなく、お母さんの思いを聞くものだと聞けて、良かったです。
12. 保護者の話をどう聞いて返しをするのか、それを踏まえてどのように進めるのか、いろいろ参考になりました。
13. 親としてロールプレイしたときに、話を聞いてもらうことのありがたさを感じました。とにかく聞いてもらうことが、とてもいいなと思えました。
14. 保護者の立場・側からの感じ方・目標等を経験でき、実際に心を開いてどれほどの思いを語れるか。改めて保護者の思いに寄り添った取り組みを大切にしたいと考えた。
15. 保護者側を体験することで、ワークのどの部分で悩みそうか、ペアで話し合うなどのすすめ方の参考になりました。ファシリテーターは、予想外の意見が出た時のグループの回し方を考えることができました。
16. グループ全体の流れを意識しつつ、個に還元できるようなファシリテートの重要性和難しさを実感した。
17. 個人的には、検査報告（学童期）で、学校の先生か保護者に返して、今後の支援を検討することが多い。ペアトレのエッセンスや場の流れを意識するファシリテートの立ち回りは、自分にとっても参考になるものだったと思う。
18. ファシリテーター役では、出てきた意見を上手につなげたり、まとめたりすることの難しさを感じました。押し付けすぎず、みんなで話す雰囲気作りが大切だと思いました。親役では相づちを打ってもらったり、コメントしてもらうことで安心して話すことができました。そういった雰囲気作りが大切だと思いました。
19. 難しさのある保護者さんとペアになった方へのフォローにも気を配る必要があるのではないかと感じました。グループワークの中に全体をみわたしつつ、保護者（参加者）へのアセスメントを深めていくような反省会・振り返りの場が必要なのではないかと感しました。
20. ファシリテーターの実際の進め方などが実際にみられたので、今から実施するペアトレのイメージが具体的になり良かったです。すぐ、活かせることができそうです。
21. 園の職員です。園では保護者の悩みに対して聞く、助言を求められることが多いため、どうしてもすぐに答えてしまいがちですが、ファシリテーターは導く役なので、受けて、他の保護者に聞くことが大事だと思いました。そうすることで、保護者が共感が得られたり、自分の思いや考えが認められたと感じることができるのだと思いました。
22. 保護者役（緊張する感じ）体験できたのでありがたかった。

表 10【2 日目】今後事業として展開するにあたり県や発達障害支援センターからどのようなフォロー、バックアップ体制があると良いですか（事業として展開するご予定のない市町からも、ぜひご意

見をお聞かせください)

1. 他市町の状況、工夫されている点を知れるのは、とてもよい刺激となりました。実際に使用されているテキストの共有もイメージをもつのにすごくありがたかったです。
2. まず、今日のような学習の機会があるとうれしい。市町によって、できることに違いはあると思うが、基本のパッケージを提示してもらえると導入しやすいのかと思った。
3. 見守りと助言をお願いしたい。
4. すでにされていると思いますが、事業開始、導入にあたっての助言、パッケージ、展開の提案、情報提供、開始してからのSV的な振り返り、検討の機会があると安心すると思います。
5. 職員向けの研修(基礎)をオンラインで配信してもらえると全員が知ることができるので、もしできたら良いなと思った。
6. 市では、療育部で事業をしていて、学童期以上に展開されていくことが難しそうに思う。職員が1~2年おきに交代していくことも大きい要因だと思うが、保護者のニーズは今後高まるのではないかと予想されるので、全県的に、PEATREの年齢層の対象が広がることで波に乗れたらよいなと思った。
7. メンター事業とPTとの今後の方向性について、自身ではうまく理解がもてていません。わかりやすい説明が聞きたいです。
8. 今のところは、特に…
9. 担当者が交代する可能性もあり、ぜひ毎年同様の研修会を開催してほしいです。
10. 湖東4町で開催する研修のレジュメはぜひ教えていただき、そのまま利用可であれば、ありがたいなと思います。
11. 県内各市町の実践例を積極的に発信していただけるとありがたいです。
12. SVや今回のような研修でファシリテーターとしてのスキルをみがく場があるといいと思います。
13. PEATRE定着後も、研修会はあっていいのではと思います。養成研修という名前ではなく、意見交流会という形になるのかもしれませんが、年に1~2回は定例会があってもいいのではないかと思います。
14. 園所の先生はもちろん、学校の先生向けの研修会があってもいいのかなと思いました。(特別COとかからはじめるでも…)。
15. 実際のやり方を体験でき、PEATREの進め方や雰囲気味わうことができました。専門職同士のロールプレーだったので大きくそれることはなく進んだので、生のやっておられる所の見学ややっておられる所の動画など見る機会があると嬉しいです。
↳(案内レジュメにありました。ありがとうございます。)
16. 実際に行っている場を見学頂き、アドバイスを受けることができたかと感じています。効果について報告することも事業化において求められると思い、そうした部分についてもアドバイスを頂けると幸いです。
17. PEATREをドロップアウトされた方のフォローの仕方など。

表11【2日目】その他、ご意見ご感想ありましたらご記入ください。

1. 大変勉強になりました。彦根市で、実践的な導入のめどはありませんが、日々のグループワークや保護者支援の中で活かせるようなポイントがいくつもあったので、まずはそこから取り入れてみたいと思いました。先日の質問であげさせてもらった ZOOM などのネットを利用した取り組みについて、先生のご回答や参考資料等があれば、いただけるとありがたいです。ありがとうございました。
2. 2 日間ありがとうございました。職員の体制や力量等、市として整っていないことが目の当たりであったが、何から始められるかを市として考え、実践していけるよう創意を工夫していけると良いなと思った。
3. 午前中の講義は、短い時間だが、できれば 3 分間ほどでもよいので、トイレ休憩を挟んでもらえるとありがたい。
4. 私の勤務先では、生涯にわたる重心児の支援が主なので自助グループができることが大切だと考える。ペアトレの要素が生かされる方法を考えながらグループワークなどを持ちたいと考えている。また、勉強していきたい。
5. 2 日間ありがとうございました。
6. 研修ありがとうございました。
7. 2 日間にわたりていねいにご教示いただきましたこと、関係の皆様に関心よりお礼申し上げます。
8. 2 日間ありがとうございました。実施しているペアトレの内容や進め方を振り返るよい機会となりました。
9. この度は、貴重な機会を頂き、ありがとうございました。個人的な話になりますが、大学院の指導教員がペアトレ研究実施をしていたので、ずっと関心がありました。参加できて良かったです。今後はコアメンバーの参加が中心になるかと思いますが、何卒よろしくお願いします。
10. 2 日間ありがとうございました。だいぶ先になりますが第 3 回も楽しみにしています。
11. 2 日間ありがとうございました。
12. ペアトレの知識のある幼児教育者が増えていくと園で救われる保護者がたくさんいると思います。保護者が救われると子どもが救われます。支援が必要な子どももそうでない子どもも、よい親子関係で過ごせるといいなと思います。
13. 私自身小学生の子どもがいるので、今回の研修はとても興味深く学びがあり、実践していきたいとも思いました。悩んでいない、困っていない保護者は少ないと思います。大半の人が子育てに悩み、ストレスを抱えていると思います。いろんな人にペアトレが浸透していきますように…。
14. 色々な市の方と交流ができ、ありがたかったです。

第3章 ニーズ別研修

3-1 ニーズ別研修の事前アンケート調査

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修での学びをより深め、参加者に対してそれぞれの市町の取り組みの段階や状況について知り、それぞれのニーズに合わせた「ニーズ別研修」の実施をするために事前アンケートを実施した。事前アンケートはペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修終了時に配布した。アンケートの項目は以下の通りである。

3-1-1 アンケート項目

1. ニーズ別研修について、興味がありますか。該当するところに○をつけてください。
 - ・ニーズ別研修①「プログラムの内容についてさらに理解を深め、ファシリテーターの体験をする」
 - ・ニーズ別研修②「進め方に悩む特定のセッションについてや、保護者対応について学ぶ」
 - ・ニーズ別研修③「プログラムの内容やアレンジの仕方について、テキスト作成の工夫についての検討や情報交換」
2. その理由をお聞かせ下さい。
3. 参加してみたいと思うニーズ別研修はどれですか。(複数回答可)
4. 業務との兼ね合いなど実際に参加が可能か、また、参加しやすい場所や時間帯など、ご意見をお聞かせください。

3-1-2 事前アンケート結果

1. ニーズ別研修について、興味がありますか。該当するところに○をつけてください。

表1 ニーズ別研修①「プログラムの内容についてさらに理解を深め、ファシリテーターの体験をする」

	N	%
興味がある	8	40
やや興味がある	10	50
あまり興味がない	2	10
興味がない	0	0
合計	20	100

表2 ニーズ別研修②「進め方に悩む特定のセッションについてや、保護者対応について学ぶ」

	N	%
興味がある	13	65
やや興味がある	7	35
あまり興味がない	0	0

興味がない	0	0
合計	20	100

表3 ニーズ別研修③「プログラムの内容やアレンジの仕方について、テキスト作成の工夫についての検討や情報交換」

	N	%
興味がある	9	45
やや興味がある	10	50
あまり興味がない	1	5
興味がない	0	0
合計	20	100

2. その理由をお聞かせ下さい。

* () 内の数字は選択したもの

- ・担当者がかかわるなどの変化があったときに、課内だけでなく、こうした各市町のみなさんと情報交換しながら学べる機会があるとありがたいです。(①②③興味がある)
- ・面談等に活かせると思う(①②③興味がある)
- ・ファシリテーターの経験がないので体験はうれしいです。また、保護者対応もどういう対応ができるのか知りたい。(①②③興味がある)
- ・今回研修を受講して各市町の実情に応じた取り組みを知ることができ、それが自分の町での検討をする上でとても貴重な機会でした。こうした取り組みの交流とともに未実施者として、ニーズ別研修には興味があります。(①②③興味がある)
- ・進めていくうえで、どう対応するのか、実際のケースでは、どう対応されていたのかを伺うことで対応について考えたいと思う。(①やや興味がある、②③興味がある)
- ・市でペアトレを実施する中で悩むところや困っているところの参考になる研修が受けられたと思います。(①③やや興味がある、②興味がある)
- ・今後の実施に向けて、もっと学びを深めたいので。(①やや興味がある、②③興味がある)
- ・ペアトレを開始するのにあたり、見直しや工夫を検討したいため。(①②やや興味がある、③興味がある)
- ・どれも興味がありますが、特にプログラム内容のアレンジについては、これまでおこなってきた PT の対象者が低年齢だったのもあり、通常の枠組みではうまく機能しないことも多いので、バリエーションを増やしたいと考えたことから。(①②やや興味がある、③興味がある)
- ・療育に通う 2 才～5 才児の保護者グループの担当を現在任されている。保護者の困り感や悩み

を受け止めつつも子育てに前向きに向き合える保護者支援をより充実させたいため。(①③やや興味がある、②興味がある)

・テキストについては、今年度改訂したこと。ファシリテーターは、すでに体験していますので。(①③あまり興味がない、②興味がある)

・今回は専門職同士のロールプレイだったので、上手く進む雰囲気を体験することができましたが、どんな場合にうまくいかないのか、気をつける点や配慮する点をさらに聴いてみたいから。(①③やや興味がある、②興味がある)

・「ながす」の回のすすめ方に悩むことが多いので、改めて説明の仕方など聞きたいです。(ながす＝無視ととらえてしまい、子どもを無視なんてできない!と言われたり)。(①③やや興味がある、②興味がある)

・現在の業務では実践することはないが、園現場ではペアトレを必要とする保護者はたくさんいると思う。大半は子育てに悩み、それを打ち明ける人も少ないのが現状。特に保護者対応について学びを深めたい。(①やや興味がある、②③興味がある)

・今、自分が担当しているペアトレがないので、自分の体験と照らし合わせながらお話を聞くのが難しいから。(①あまり興味がない、②③やや興味がある)

・いくつかの内容について演習はさせてもらったが、まだ勉強不足で全体の流れやその狙いが十分理解できていないため、内容を中心にさらに学べればと思う。(①興味がある、②③やや興味がある)

・ペアトレについての理解を深めたいと思ったため。保護者支援について強化していきたい。(①②興味がある、③やや興味がある)

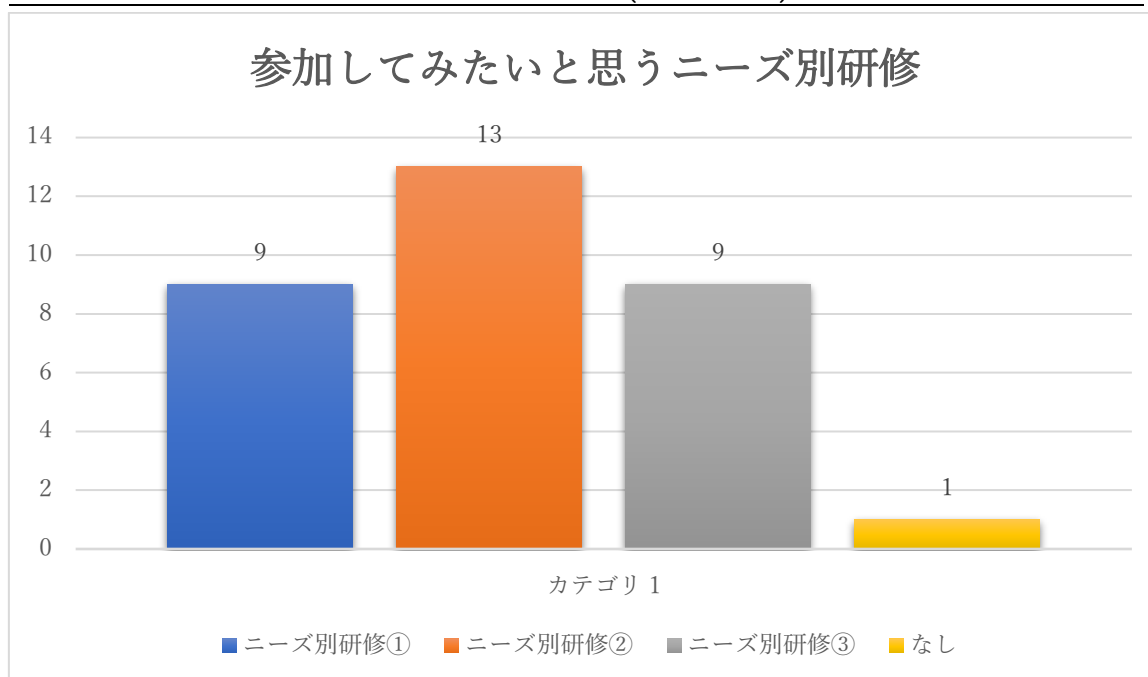
・今回の研修だけでは、十分なイメージが持ちづらいこともあるので、深める場が欲しいと思った。ただまだ自分自身がそこに関わる場があるわけではないため、“進め方や対応について”や“アレンジやテキスト作成の工夫”よりも理解と体験を優先させる。(①興味がある、②③やや興味がある)

・プログラムの内容や具体的な体験として、話を聞いたりPRしたり学びたいと思う。

すすめ方に悩む、や情報交換については彦根市では導入が未定のため、現状ではあまり実用的ではないと思ったため。(今後、必要になればぜひ…)(①興味がある、②③やや興味がある)

・試験段階なので、様々なことを学べたら、と考えていたため。コアメンバーが実施研修に参加できなかったため。(①②③やや興味がある)

3. 参加してみたいと思うニーズ別研修はどれですか。(複数回答可)



- ①「プログラムの内容についてさらに理解を深め、ファシリテーターの体験をする」・・・9 名
 ②「進め方に悩む特定のセッションについてや、保護者対応について学ぶ」・・・13 名(1 名…△)
 ③「プログラムの内容やアレンジの仕方について、テキスト作成の工夫についての検討や情報交換」・・・9 名
 ④なし・・・1 名(コアメンバーでは、ないため)

4. 業務との兼ね合いなど実際に参加が可能か、また、参加しやすい場所や時間帯など、ご意見をお聞かせください。

＊() 内数字は選択したもの

- ・2 か月程度先の予定でしたら調整可能です。(①②③)
- ・事前に(1 か月以上前)、案内が来ると参加可能ではないかと思われます。(①②③)
- ・療育事業との兼ね合いから、参加可かは日程次第というのが正直なところです。特定の曜日、時間ではないほうが調整しやすいと思います。(①、②は△印、③)
- ・火曜日、水曜日は比較的決まった事業が少ないので参加しやすいかと思います。(②③)
- ・ぜひ参加したいです。が、すでに入っている予定が多く、都合が合うと良いのですが……。キラリエ草津は場所的に参加しやすかったです。JR の駅から近いとありがたいです。(②③)
- ・日により参加可だが、ZOOM などが都合をつけやすい。(③)

- ・事前に日程が分かっていたら対応が可能ですが、心理士が 1 人なので、イレギュラーが生じやすいです。草津近辺がありがたいです。(③)
- ・終日参加はなかなか難しく、半日、午後の開催が比較的参加しやすい。JR 沿線または、湖東辺りがありがたい。(②)
- ・業務によっては、今回のような時間帯であれば参加可能です。(②)
- ・参加できるかどうかは、設定いただく日にちによって異なります。1 日研修よりも半日研修の方が参加しやすいです。同じ曜日が重なると抜けにくいので、バラバラだと嬉しいです。(特定の曜日だと同じ通級生ばかりキャンセルになるので)(②)
- ・半日とかであれば参加しやすいです。また、参加検討します。(②)
- ・業務に支障がなければいつでも参加可です。(②)
- ・他の担当業務が優先になってしまうため、参加可能かどうかは分かりません。他の方の予定を調整してもらって、都合が空いていれば参加できるといいなと思います。(②)
- ・現在の職務に自分しか担当がいらないため、参加が難しい。金曜日の午後、できるだけ近いところでしていただければ参加可能。(①)
- ・午後からであると参加しやすい。他の職員が参加するかもしれない。(①)
- ・“今回の研修に参加した方はぜひ”といった促し、今回との繋がりが強調されると出やすい。(①)
- ・今回のように早めに日程がわかっていると調整がしやすいので助かります。人員的に参加できない可能性があります。(①)
- ・業務との兼ね合いで、参加が難しいこともあるかもしれませんが。コアメンバーの希望によっては、可能であれば、インターネットとの双方向型も検討いただけるとありがたいかもしれません。(見学だけでも)(なし、コアメンバーではないため)

3-2 ニーズ別研修の実施

3-2-1 ニーズ別研修事前案内の送付

上述したペアレント・トレーニング終了後のアンケートの内容を踏まえ、当日の講師である小池由香里氏（公認心理師・臨床心理士）と望月基子氏（公認心理師・臨床心理士）との打ち合わせを実施した結果、滋賀県発達障害者支援センターから以下のような内容でメールにて全市町に周知した。

令和5年度 滋賀県「家族支援普及事業」

「ペアレント・トレーニング ニーズ別研修」開催のご案内

滋賀県では、家族支援における人材育成を目的として、7月に「ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修」を開催いたしました。今年度は、新たな取り組みとして、ファシリテーター養成研修での学びをより深めるために、それぞれの市町の取り組みの段階や状況、またそれぞれのニーズに合わせた「ニーズ別研修」について、下記のように開催することといたしました。

すでにペアレント・トレーニングを実施されている市町、また、今年度より実施される市町だけでなく、今後導入を検討されている市町の皆さまもぜひご参加くださいますようご案内いたします。

記

1. 内容

(午前の部・ニーズ別研修①)「進め方に悩む特定のセッションや、保護者対応について学ぶ」

(午後の部・ニーズ別研修②)「プログラムの内容やアレンジの仕方について、テキスト・ワークシート作成の工夫についての検討や情報交換」

2. 主催

滋賀県発達障害者支援センター

3. 日時

令和5年11月30日(木) 午前の部 9時～12時(受付8時45分～)

午後の部 13時～16時(受付12時45分～)

4. 場所(予定)

滋賀県発達障害者支援センター(南部センター)大会議室

〒525-0072 滋賀県草津市笠山8丁目5番130号

5. 対象

滋賀県内の市町発達支援センター・発達支援室(課)・療育教室・園の皆さま

6. 参加申込み方法

別紙の「出欠連絡票」の参加希望の日程に○を入れていただき、メールにて返信く

ださい。

＊複数で参加の場合は、連絡票をコピーしていただき、一人一枚でご返信ください。

＊申込み締め切り：令和5年11月10日（金）

7. お問い合わせ先

滋賀県発達障害者支援センター 077-561-2522 （担当：山下・後閑）

出欠連絡票

研修名	日程	講師	内容	出欠
ニーズ別研修① 「進め方に悩む特定のセッションについてや、保護者対応について学ぶ」	11月30日 （木） 9時～12時 （8時45分 受付）	小池由香里氏 望月基子氏	・進め方が難しいと感じるセッションについて、具体的なセッションの進め方等のポイントの講義。 ・保護者対応について対応方法のバリエーションを身につけるための演習。 ・具体的な工夫や保護者への声のかけ方などについての意見交換。	
ニーズ別研修② 「プログラムの内容やアレンジの仕方について、テキスト作成の工夫についての検討や情報交換」	11月30日 （木） 13時～16時 （12時45分 ～受付）	小池由香里氏 望月基子氏	・テキストやワークシートを持ち寄って、工夫や難しさについての意見交換。 ・“知的障害がある場合”“ADHD 傾向が強い場合”“ASD 傾向が強い場合”など、グループの特徴に合わせたテキスト作りに関する意見交換。	

令和5年 月 日

【お名前】

【市町名・担当部署名】

（市／町）

【ご連絡先】（TEL）

（MAIL）

◆下記スケジュールの参加を希望される研修に○をつけてください。

【返信先アドレス】 shigahattatsu2@gmail.com

【お問い合わせ先】滋賀県発達障害者支援センター 077-561-2522 （担当：山下・後閑）

3-2-2 ニーズ別研修参加申し込み者への事前アンケート調査

ニーズ別研修周知案内後、参加申し込みのあった市町担当者に向けて事前アンケートを実施し、より具体的に参加者が学びたいことの確認を行った。項目は以下の内容である。

3-2-2-1 アンケート項目

- 1 お名前とご所属をご記入ください。
- 2 ペアレント・トレーニングを実施中の市町の皆さんにお聞きます。今年度の予定を教えてください。
- 3 ペアレント・トレーニングを実施する中で困ったことについてそれぞれ教えてください。
 1. プログラムの内容やテーマに関すること
 2. 運営に関すること
 3. 保護者対応に関すること
 4. テキストや講義スライドなどに関すること
- 4 ペアレント・トレーニングを実施して上手くできていると感じられることがあれば教えてください。
- 5 ニーズ別研修で学びたいことや聞きたいことを教えてください。
- 6 その他何かあればご記入ください。

3-2-2-2 ニーズ別研修の事前アンケート調査結果

表1 ペアレント・トレーニングを実施中の市町の皆さんにお聞きます。今年度の予定を教えてください。

- 1 年5回を予定しています
- 2 現在二学期のペアトレ中、来年1月からメンバーが集まれば三学期にて開催予定
- 3 令和5年4月から令和6年3月まで月に1回1時間(全11回)を3会場で実施。
- 4 6回1クール実施
- 5 現在、実施は未定です。

ペアレント・トレーニングを実施する中で困ったことについてそれぞれ教えてください。

表2 プログラムの内容やテーマに関すること

- 1 内容が多すぎたりするのでお伝えする分量に悩みます。
- 2 特になし
- 3 「行動」を見ることがわかりにくい保護者がおられ、伝え方が難しい。待ってからほめる」は受け身タイプのお子さんには合わずやりにくかった。
- 4 特になし
- 5 未実施

表3 運営に関すること

- 1 なかなか人数が集まりにくいことです。
- 2 人数が最後まで安定しない
- 3 前の回から1か月あくこともあり丁寧に前回の復習があるとよいと思うが、1時間の枠なので、時間がさけない。欠席された方への対応(仕事などで他で時間がとれない方も多い)"
- 4 就労や託児などの課題
- 5 未実施

表4 保護者対応に関すること

- 1 虐待に関する内容が出たときです。
- 2 自分の子どもへの虐待の話を始め泣き始めた時
- 3 保護者の理解する力に差があるとき、グループワークのみでは、どこまで理解されているのかわかりにくい。プログラムの内容を生活の中で上手に活用されている保護者のホームワークの内容を聞いて、自信をなくす保護者がいる。
- 4 特になし
- 5 未実施

表5 テキストや講義スライドなどに関すること

- 1 1番目の内容と同じです。
- 2 今の保護者のニーズに合わせるべきか…ゲームなど
- 3 ペアトレ研究会のレジュメを元に資料を作成している(1回1時間であり、2・3回にわけることもある。プロジェクターはないため印刷して配布している。"
- 4 特になし
- 5 未実施

表6 ペアレント・トレーニングを実施して上手くできていると感じられることがあれば教えてください。

- 1 保護者の人が良かったと言ってくださったとき
- 2 回数を重ね、自分達の子育て経験と周りの話を聞き、共感しながら自信を持っている姿を感じた時
- 3 保護者自身が講義の内容をもとに自分で工夫して実践されているとき。保護者から自発的に意見が出るとき生活の中で怒ることが減ったという話を聞いたとき。"
- 4 保護者の子どもの捉え方や関わり方の変容
- 5 未実施のため、わかりません。

表7 ニーズ別研修で学びたいことや聞きたいことを教えてください。

- 1 資料の中身について、みなさんのご意見をお聞きできると嬉しいです。
- 2 困難な保護者対応。グループでの話し合いなのに、自分の話しをずっとする。
- 3 ペアトレのグループを保護者に周知するときに、どのような文言でチラシを作るとよいのか。講義スライドで工夫できるポイントがあれば知りたい。"
- 4 各市町村の実施の持ち方など共有したい
- 5 それぞれの市町で始める時の準備はどのようにされましたか？大変なことや、こうしたら上手くできた等エピソードを教えてもらえたら嬉しいです。ペアレント・トレーニングを実施するにあたって、どれくらいの職員と連携をされましたか？ペアレント・トレーニングを実施するにあたって、周りの理解を得るためにはどのような取り組みをされてきましたか？ それぞれの市町さんでの具体的な実施例を通して、たくさんご教授していただきたいと思っております。

表 8 その他何かあればご記入ください。

ペアレントトレーニングということへの周知がまだまだ少ない状態です。実施するにあたってどのようなことから取り組みばよいのか、どのように周知をしていけば良いのか等、基礎的なことも含めて学びたいと思っております。当日(11月30日)はどうぞよろしくお願い致します。

これら事前アンケートの結果から開始時間および研修内容について見直し、開始時間を9時から10時に変更している。また、当初半日ずつの研修内容だったが、終日参加の方が多数のため、取り組む内容については変更せず、1日研修として再編した。

3-2-3 研修実施内容

目的:それぞれの市町の取り組みの段階や状況、またそれぞれのニーズに合わせた研修を行い、ファシリテーター養成研修での学びを深める

日時:令和5年11月30日(木) 10時~16時

場所:滋賀県発達障害者支援センター 南部センター 会議室

講師:小池 由香里氏[公認心理師・臨床心理士]、望月 基子氏[公認心理師・臨床心理士]

参加者:8市町10名で、うちペアレント・トレーニング実施市町は7市町である。

日程:

時 間	内 容
9:45 ~ 10:00	受付 【会議室】
10:00 ~ 10:10	オリエンテーション・自己紹介
10:10 ~ 10:15	移動 (Aグループ:相談室5 Bグループ:会議室)
10:15 ~ 10:50	グループワーク (2グループに分かれて状況の共有)
10:50 ~ 11:00	移動・休憩

11:00 ~ 12:00	全体ワーク①「保護者対応について」 質疑応答・意見交換
12:00 ~ 13:00	昼休憩
13:00 ~ 13:40	講義「いろいろなペアトレとその適用について」 質疑応答
13:40 ~ 15:20	全体ワーク②「よりよいプログラムの実施のために」 (途中休憩あり)
15:20 ~ 15:45	振り返り・まとめ
15:45 ~ 16:00	事務連絡・閉会・アンケート記入（記入された方から解散）

3-3 ニーズ別研修の事後アンケート調査

研修終了時に、参加者にアンケートの記入を依頼した。項目は以下の通りである。

3-3-1 アンケート項目

- 1 全体ワーク①「保護者対応について」
- 2 講義について
- 3 全体ワーク②「よりよいプログラムの実施について」
- 4 その他（運営、今後の研修への希望について）

3-3-2 事後アンケート結果

表1 全体ワーク①「保護者対応について」

- 1 ペアトレの中で困ってしまうこともありましたが、小池先生が言って下さったようにペアトレに適した保護者でなかった可能性、そういった難しい方も支援の中で方向性をあまり考えずにペアトレをすすめた結果ではなかったかなど、広い視点から考えられました。ありがとうございます。
- 2 他市の保護者対応における難しさを具体的に聞くことで、そのような意見が出るのかも心構えができると良いと思いました。
- 3 難しい対応について共有できた。「叩くこと」よりも「叩きたい気持ち」へのフォーカスをすればよいことがわかった
- 4 長浜市はまだ1回しか実施していないため、いろいろなパターン、対応方法を具体的に聞くことができ、大変参考になりました。
- 5 実際にやってみることで保護者対応で悩むことが多く、皆さんの意見を聞いて引き出しを作れたのはとても有意義な時間となりました。1クール目、2クール目を実施する中で、様々な保護者さんがいることも実感しています。今後も色々な方とお会いと思うので今回のような場が来年度以降もあるといいなと思いました。

- 6 対応についての色々な意見をうかがうことができて今後の参考になることが多かった。知見が広がったと思う。具体的な対応の仕方も実際に体験も通して知れてよかった。
- 7 どの市町にも保護者の就労の関係等で全シリーズに参加することができていないのを聞いて、保護者にその必要性や参加している意味の大切さ等を伝えていくことが重要だと感じた。
- 8 実際にペアトレを実施されている方がどのようなことに困っておられるのか、また、どのようなことに配慮して保護者対応されているのか知ることができてよかったです。

表 2 講義について

- 1 色々なスタイルを学べてよかったです。ありがとうございます。
- 2 保護者同士での共有などをし、いろいろな保護者への対応、頑張りたい
- 3 プログラムの組み立てや重点にしたい要素を図で分かり易く示していただいたので、担当で計画を立てる際に参考にしたいと思います。
- 4 支援が必要な層の整理ができた
- 5 整理できてよかったです。それぞれ施策別に説明していただけて事業展開の見通しが持てました。とてもわかりやすかったです。
- 6 発達支援だけでなく虐待や子育て支援のペアトレについて知ることができたことがとても良かったです。どんな目的で行うのかを考えながらプログラムも変更して行なっていきたいと思いました。
- 7 オーダーメイドなペアレント・トレーニングの組み方、持ち方を考える上で、大切な視点を多く確認できてよかった。
- 8 講師の先生方が実際にしていたペアトレの話がいろいろ具体的に聞けて良かったです。
- 9 ペアトレを進めていく人材の工夫をし、協働しながら進めていけたらいいと感じた。ペアトレの基本的な部分、進め方が分かった。
- 10 どういう方が対象でどういう狙いがあるからコアエレメントやコアエレメント以外でどのトピックを入れたのか具体的に聞けて良かったです。1 回の時間が少ないのもう少し絞った内容にしていきたいと思います。

表 3 全体ワーク②「よりよいプログラムの実施について」

- 1 他市町の様子や目的を知ることができ、視野が広がりました。
- 2 今後の発展に向けて新しく取り入れたい。参考にしたいところもたくさんありました
- 3 他市の実践の幅広さに、本市としてもまだまだ考える余地があるなど感じました。
- 4 フォローの体制など市町の歴史があることや回数、内容など知ることができたのでよかったです。
- 5 実施してみて課題に感じていたことへの解決に繋がりました。全体を通してこのような機会は今後も実施していただけると事業を続けるモチベーションやエネルギーに繋がります。
- 6 様々な市のやり方について知ることができ、N 市で使えるようなやり方を盗みながら N 市バージョン

ョンに変えてよりよいペアトレにしていきたいと感じました。

- 7 情報対象、具体的に多くできてよかった
- 8 他市の実際の取組みを知れて、いろいろ参考にさせていただきたいと思いました。
- 9 ペアトレのみを取り出して進めていくことが現状困難（人材、環境等）であるため、東近江市さんや守山市さんの取組みが参考になった。質問でもあった“ペアトレはサポートの入り口”ということが印象的であった。
- 10 ペアトレだけで関わりを知ってもらう!と考えすぎず、その方を支援する一部であるという視点を忘れずに実施していきたいと思います。ホワイトボードの活用や実施方法についても、参加者の反応を見ながら工夫していきたいと思います。

表4 その他（運営、今後の研修への希望について）

- 1 今回もありがとうございました。
- 2 自分たちだけで考え、実践すると視野が狭くなるので他市との交流、基本をおさえることができる研修の機会はありがたかったです。
- 3 年度ごとの実施を共有できる機会があるといいですね。今回のアイデアは来年度に活かされるのでその結果を知りたいです。
- 4 今後もこのような研修で意見交流ができればいいなと思っています。今日はありがとうございました。
- 5 1日ありがとうございました。自市のみが未実施でとても気まずい状況でしたが、様々な情報を知れてよかったです。
- 6 他市町と情報を共有できる機会が今後もあると嬉しいです。

第4章 ペアレント・トレーニングファシリテーター フォローアップ研修

4-1 フォローアップ研修の実施

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修の参加者を対象に、フォローアップ研修を実施した。11市町1機関20名が参加。

4-1-1 研修内容

日 時:2024 年 1 月 25 日(木) 15:00~17:00 (受付:14:45~)

場 所:ZOOM、キラリエ草津 6階 大会議室 (滋賀県草津市大路 2 丁目 1 番 35 号)

内 容:県の取り組みとファシリテーター養成研修終了後の市町の状況について

講 師:加藤 永歳氏[社会福祉法人 東京都手をつなぐ育成会 大田区立障がい者総合サポートセンター]

井深 允子先生[家族支援普及事業アドバイザー]

小池 由香里氏[公認心理師・臨床心理士]

望月 基子氏[公認心理師・臨床心理士]

参加人数:11市町(1機関)20人

日程:

時 間	内 容
14:45 ~ 15:00	・ 受付
15:00 ~ 16:00	・ 開会 ・ 市町からの報告 ・ 長浜市・草津市からの報告 ・ 各市町の状況について情報共有
16:00 ~ 16:10	・ 井深 允子先生より (家族支援普及事業アドバイザー)
16:00 ~ 16:25	・ 専門家 小池 由香里氏・望月 基子氏より ・ ニーズ調査の結果
16:25 ~ 16:35	・ センターからの報告 ・ 湖東圏域4町での試行的なペアトレ ・ ニーズ別研修 ・ 次年度の予定について
16:35 ~ 16:55	・ 加藤 永歳氏より (社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会)

	大田区立障がい者総合サポートセンター)
16:55 ~ 17:00	・閉会・事務連絡

4-2 フォローアップ研修事後のアンケート調査

フォローアップ研修修了後、Google フォームにて参加者にアンケートを実施した。(回収率 40%)

1. 今後の貴市町 での家族支援事業について(次年度の取組みの方向性等)

- ・今のところ実施なし
- ・ペアレント・トレーニングの事業化に向けての取組みを行う。ペアレント・トレーニングを次年度も行う予定。
- ・今年度 2 クールペアトレを実施し、来年度は 3 クールペアトレを実施できないかと考えています。併せて、ニーズがあれば、子育て支援に特化したペアトレも実施できたらとも考えています。ただ、ペアトレができる職員もだいぶ限られているため、他の関係機関にも養成研修を受けていただけるとより家族支援が充実していくのではないかと考えています。
- ・なし
- ・町として、ペアトレの導入については、未定です。
- ・保護者支援の重要性から、ペアレント・トレーニングを推進していく方向。
- ・療育教室のペアレント・トレーニング
- ・今年度同じ程度の予定(保護者学習会、メンター活用)

2. 県センターへ希望することについて(1 つのみ回答)

- ・ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修…4
- ・ニーズ別研修…3
- ・その他…町では、就労等を理由に療育に通うことも難しいご家庭が増えています。小さな町の中で取り組んでいけることを、またご相談させてください。

3. その他 今回の研修に参加したご感想など、ご自由にご記入ください。

- ・ペアレント・トレーニングのニーズ調査はとても興味深かったです。オンラインの実施について、いい点や考えられる課題を知れてよかったです
- ・各市町のお話や先生方のお話をお伺いし、今後の取組みに活かしていきたいと思いました。
- ・他市町の状況や、オンラインの活用などを聞き、とても勉強になりました。今年度始めたばかりで慣れない点も多いため、今後も研修に参加させていただいたり、直接お尋ねさせていただきながら、よりよいペアトレにしていけたらと思います。

・加藤氏の「その内容であれば受けてみたい」と思ってもらえることが大事という言葉が印象に残りました。ペアトレに限らず、保護者支援のテーマや内容を考えるときに参考にしたいと思います。勉強になりました。ありがとうございました。

・保護者の方へのかかわりを日々模索する中で、実施していない者として保護者の方に負担となると感じていたホームワークが、こどもへの関わりを意識するものとなっているという実施者からのご発言がとても印象に残りました。

・ペアレント・トレーニングについて学んだり、各市町の取組を聞かせてもらうよい機会となりました。現在の状況でそのままを取り入れて実施するのは難しいですが、そのエッセンスを使ったり、発達支援室と連携しながら進めていければと思いました。ありがとうございました。

・これまでの自分の問題意識と当事者意識の低さを反省しつつも、ここで学んだ視点を、(一対一にはなりませんが)保護者面談に役立てていきたいです。そして、いつか学齢期むけのペアレント・トレーニングがファシリテートできるようになりたいと思いました。ありがとうございました。

・ファシリテーター養成は異動があっても実施可能な職員を増やすために毎年実施してほしい。メンター活用は、体験を語るいわゆるこれまでの当事者保護者の活用との境目が曖昧で、結局のところ、市町の状況に合わせての曖昧なままでよいのか。各市町の理解と実践に違いがあり、すでに目的と狙いが別物になりつつあるように見えた。特にメンター活用については、来年度でこうしたフォロー研修や体制が最後になるのか、続くのかを明確にしていきたい。

第5章 人口規模の小さい町でのペアレント・トレーニングの実施

前年度までの取組みの中で、県内のどこに住んでいても、身近なところで必要な子育て支援を受けられる体制づくりに取り組んできた。今年度は人口規模の小さい地域でも継続して実施できる『ペアレント・トレーニング』と課題整理を目的として、湖東圏域の4町に協力をお願いしながら試行的にペアレント・トレーニングのプログラムを実施した。実施前には、4町それぞれの担当者、4町から子どもが集まる療育教室に事前に聞き取りを行い、その結果4町から子どもが集まる療育教室が対象者の募集や会場の提供など全面的に協力してくださることとなった。その後、参加する保護者と4町担当者向けの説明会を行った。また、プログラム終了後には4町それぞれの担当者と協力していただいた療育教室と事後の振り返りの会を設け、今後のペアトレの実施について検討を行った。

5-1 保護者説明会の実施

療育教室に対して事前の打ち合わせを実施し、対象となる子どもをある程度言葉のやり取りができる4.5歳児（火曜日午後のクラス）とした。事前に療育教室からもペアレント・トレーニングについて説明していただきつつ、滋賀県発達障害者支援センターのスタッフからも説明会を行った。その結果、5名の保護者が参加していただけることとなった。

5-1-1 実施内容

目的：県センターが行っている家族支援普及事業やペアレント・トレーニングに関する説明、4町で行うペアレント・トレーニングのプログラムについての説明を行う。

日時：2023年11月7日（火）14：00～17：00

場所：療育教室

対象者：療育教室に通っている保護者（火曜日午後のクラス）5名

内容：・滋賀県発達障害者支援センターの事業説明（家族支援について）

- ・ペアレント・トレーニングについて
- ・4町でのペアレント・トレーニング開催について
- ・事前の聞き取り同意書について

5-1-2 事前情報の聞き取り項目

ペアレント・トレーニングに参加する保護者や子どものタイプについて予め把握し、より効果的にペアレント・トレーニングを実施するために、以下の項目で療育教室に聞き取りを行った。

聞き取り項目

（保護者の情報）

1. 家族構成と年齢

2. 就業の有無
3. 健康状態
4. 子どもの障がいについてのとらえ方
5. 子どもについて、保護者が困っていることや心配されていること
6. 保護者対応として配慮されていること
(子どもの情報)
7. 年齢、性別
8. 診断名、診断の時期、障がいの状況
9. 特性と行動やコミュニケーションの特徴
10. 先生から見て、気になる点、課題と感じていること
11. 子どもへの関わりとして配慮、工夫されていること

5-2 湖東圏域 4 町担当者向け説明会

湖東圏域 4 町合同でのペアレント・トレーニングについて担当者向けに実施にあたっての説明会を行った。使用するプログラム資料やワークシート、アンケートなどの内容を共有し、別途報告のあるニーズ調査について 4 町のための結果をまとめ、報告を行った。

5-2-1 実施内容

日時：2023 年 11 月 10 日(金)13:30~14:30

場所：療育教室

参加者：町担当者 3 名 (3 町)、療育教室 2 名、滋賀県発達障害者支援センター スタッフ 3 名

内容：・滋賀県発達障害者支援センターよりこれまでの経過の報告

- ・4 町ペアレント・トレーニングの実施について
- ・ニーズ調査の結果について (4 町のための集計)
- ・次年度以降について
- ・その他、ご質問など

【意見交換】

・本来であれば各市町単位でペアトレを実施してほしいということなのだろうか。今後もずっと 4 町合同で行なっていくのだろうか。

→身近なところで保護者がペアトレを受けられる体制づくりを目指している。人口規模の小さいところでは各市町というよりはまずは圏域ごとの実施もあり。4 町は人手不足、対象の子どもが少ないということで実施が難しいということを知っていたため、まずは湖東 4 町合同で実施してみる取り組みを始めた。“身近なところ”という視点ではニーズ調査の結果からも療育や園での実施を希望される声も多かったため、来年度からは療育、こども園・保育園の先生もファシリ研修を受けてもらえるような研修の形を検討し参加頂きたい。

・ニーズ調査について、参加したことがある人のその後の状況は聞いているか。

→追跡はしていない。ニーズ調査の結果については今後市町と共有予定。今回4町でのペアトレでも事前、事後のアンケートを実施する予定としている。

・ペアトレを学ぶだけでは、子どもへの関わり方の習得としては変化が望みにくい。療育での保育士の関わり方を見て学んだり、一緒に対応の仕方を考え、一緒に学ぶことで家でもやってみようとなると思う。今後、園でもペアトレが実施出来る流れにするのであれば、かなり難しいのではないか。これまで子どもへの対応という面では各療育ですずっとやってきていることで、あとからペアトレが入ってきている状況。ペアトレの内容、理論だけのプログラムをどこまで療育教室とすり合わせられるか、定着することができかが課題だと考える。

→今年度ペアレント・トレーニングを開始した市でも当初、療育との連携が難しいと話されていたが、ペアレント・トレーニングの内容を知っていただくためにも勉強会をするなどかなり丁寧にやり取りをしたことで、実施に繋がったという例はある。

・ペアトレは個別性という面ではやりにくいと感じている。どちらかという公衆衛生が目的で、個別支援の前段階の部分での関わり方と考えている。ペアトレの内容を知ってもらう程度、ベースを作るイメージであれば可能だと思う。ペアレント・トレーニングをどういう風に使っていくか、子どもの行動が変わっていくという支援では難しいのではないか。個別での支援との併用をするのはどうだろうか。

→ペアトレの本来の目的は子どもへの対応を学んで、子どもの行動変容を目指すことにあるが、現実的には時間もかかるし難しい。県センターも含め、各市町で何を狙いとするのか。公衆衛生なのか、虐待防止なのか、保護者の仲間づくりなのかを整理する必要がある。その上で、ペアトレをどう活用するか、個別の関わりとの連動も必要。

5-3 湖東圏域4町合同でのペアレント・トレーニングの実施

以下の内容で、4町合同ペアレント・トレーニングを実施した。研修で使用したテキストは、厚生労働省障害者総合福祉推進事業で作成された「ペアレント・トレーニング実践ガイドブック」(2019年度)・「ペアレント・トレーニング支援者用マニュアル」(2020年度)を参考に、6回のプログラムを4回に編成した。

5-3-1 プログラム内容

【日時・内容】

日程(全4回)	時 間	テーマ	内 容
① 12月12日(火)	14時15分～ 16時15分	いいところ探し	オリエンテーション・ 子どもと自分のいいところ探し
② 12月19日(火)		観察上手	行動に注目しよう
③ 1月9日(火)		整え上手	環境づくりの工夫
④ 1月23日(火)		伝え上手	声かけの工夫・振り返り

【参加者】療育教室に通っている保護者（火曜日午後のクラス）5名

【場所】療育教室

【実施者】滋賀県発達障害者支援センター スタッフ

【協力者】・療育教室

- ・井深允子氏（公認心理師・滋賀県発達障害者支援センター家族支援普及事業アドバイザー）
- ・小池由香里氏（公認心理師・臨床心理士）
- ・望月基子氏（公認心理師・臨床心理士）

【参加費】無料

【お願い】・センターでの記録のためにビデオ撮影をさせていただくことがあります

- ・市町の家族支援事業担当者が見学される場合があります
- ・事前・事後のアンケートへのご協力をお願いします

5-3-2 参加者への事前・事後アンケート調査

ペアレント・トレーニング研究会のマニュアルを参考にプログラムの事前と事後に5尺評価と自由記述でアンケートを実施した。プログラムの事前と事後で子どもの行動の変化や親のストレス、子どもと親の変化などの変化を評価した。項目は以下の内容である。

5-3-2-1 アンケート項目

1. 子育てへの不安がある
2. 子育てに自信が持てている
3. 子どもと一緒に楽しむことができる
4. 子どもに笑顔が増えてほしい
5. 自分自身に笑顔が増えたらよいと思う
6. 不安や困りごとを話せる仲間がいる
7. ストレスが発散できている
8. 子どもの行動・特性の理解がある
9. 子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる
10. 子どもの困った行動がある
11. 子どもは自分から行動できている
12. 子どものできることが増えるとよい
13. 子どもは落ち着いて過ごすことができている

5-3-2-2 事前・事後のアンケート結果

		アンケート項目											
		①子育てへの不安がある		②子育てに自信が持っている		③子どもと一緒に楽しむことができている		④子どもに笑顔が増えてほしい		⑤自分自身に笑顔が増えたらよいと思う		⑥不安や困りごとを話せる仲間がいる	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
保護者	A	3	3	2	2	2	3	4	4	4	4	3	3
	B	3	3	2	2.5	3	3	4	4	4	4	3	3
	C	3	3	2	3	3	4	4	4	3	4	3	3
	D	3	3	2	2	3	4	4	4	4	4	3	3
	E	3	3	2	2	2	2	4	4	4	3	2	2

		アンケート項目													
		⑦ストレスが発散できている		⑧子どもの行動・特性の理解がある		⑨子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる		⑩子どもの困った行動がある		⑪子どもは自分から行動できている		⑫子どものできることが増えると思う		⑬子どもは落ち着いて過ごすことができる	
		前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後	前	後
保護者	A	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3	3
	B	2	2.5	3	3	2	3	4	3	3	2.5	4	4	2	3
	C	3	3	3	3	2	3	3	3	3	4	4	4	3	4
	D	2	2	3	3	2	3	3	2	3	3	4	4	2	3
	E	2	2	2	3	2	3	3	3	1	2	4	3	2	2

・自由記述

【実施前】

・自分の気持ちの余裕がないので正直後ろ向きな気持ちになることが多いですが、少しでも前向きになれたらいいなと思います。以前にもペアトレを受けたことがあるので、昔からどのようにバージョンアップされているのか興味があります。

・ペアトレを受けて子育てにいかしていき、子どもも私も笑顔が増えて楽しく過ごす日が増えたらいいなと思います。

・子どもは一生懸命色々なことに取り組んでくれている。私が本人なりの「できた」を大切にやっていくのか不安。夫にもペアトレに参加してもらい、考え方や思いを共有できたらいいなと思います。

- ・兄（9歳）がいて、1人目だし発達も気になることが多く悩んでいました。その時、ペアトレというものを知りましたが、診断のある子しか受けられないものだと思っていました。そんな不安を持っている家族につながるようにペアトレも広がればいいなと思います。
- ・子どもへの上手な接し方を知りたいです。

【実施後】

①講義について

- ・ほめることの大事さを改めて感じた。出来ていることを当然だとは思わずにほめてあげることが大事だなと思った。
- ・話を聞くだけでなく話し合いや発表する場、休憩などもあり苦もなく参加することができた。
- ・面白かったです。内容も分かり易かったです。
- ・悪いところではなく良いところに目をやって褒めてあげる

②演習について

- ・ロールプレイは恥ずかしさがあつた
- ・ホームワークは少し取組むのが難しかったけど、見つめ直す機会となった。ワークシートも考えるのは出来るけど実践は難しいなと思った。
- ・ホームワークはこまめに記入できなかった。ホームワークがあるから褒める場面に気づけたこともある。ロールプレイはちょっと緊張しました。

③運営について

- ・初回は特に感じなかったが、いつの間にか見学の方が増えて少し落ち着かなった。
- ・療育教室の間に開催してくださって参加しやすくありがたかった。
- ・時間、回数はちょうどよいと思います。

④その他

- ・自分の子の困りごととかについてアウトプットする場が少ないので自分の気持ちを整理したり改めて認識できた部分があった。色々な視点が知れて勉強になった。
- ・勉強する機会をいただきありがとうございました。これからの育児にいかしていけたらと思います。
- ・皆の出した事例をもっと知りたいと思いました。どんな場面で、どんなことがあって、どう対応した、どうなったかなど。今回のメンバーの話も聞けて楽しかったです。

5-4 湖東圏域4町担当者・療育教室との振り返り会

湖東圏域4町合同でのペアレント・トレーニングについて担当者と療育教室で振り返りの会を設けた。

5-4-1 実施内容

日時：2024 年 1 月 30 日(火)10:00~11:00

参加者：町担当者（3 町 4 名）、療育教室（2 名）、滋賀県発達障害者支援センタースタッフ 3 名

場所：療育教室

内容：・これまでの経過について

- ・4 町ペアレント・トレーニングの実施について
- ・次年度の予定について
- ・その他、ご意見など

【意見交換】

- ・見学に行って色々な保護者に内容を知って欲しいと思った。現在成人の相談を受けているが、保護者対応が難しく感じている。なるべく早く相談に繋がれるほうが良い。学校までは支援があるが、成人になってからの相談先が無い。
- ・保育士も担当も研修に出向くのはやはり難しい。空いた時間にペアトレの内容をネット上で見られるとよい。保育者にも良いと思うが、保護者向けでも良いのでないか。まずはペアトレの内容を保護者に知ってもらうことが大事。用意しておくことで、保護者に学べる教材として紹介することもできる。保育者向けに、ペアトレのファシリテーター養成研修を ZOOM やオンデマンドでしてもらえるのもありがたい。
- ・園の先生と見学が一緒の日だった。発達以外の保護者にも聞いてほしい内容だった。どこから手を付けるべきかは検討。
- ・ペアトレは公衆衛生の面が大きい。「褒める」などの関わりのベースを幅広い保護者に知ってもらうことは大事で、家に帰って使えるようなレベルのものを伝えていく。ミニ講座のようなものをするのであれば、ペアトレのコアエレメントのどの部分を取り入れるか。ペアトレをしていくのには回数や対象の兼ね合いもあり難しい。町として園向けに研修会は数回実施している。その後個別フォローに入ったりして、相談に繋がったりもしていて、外部講師として研修のようなものを行ったこともある。保育士向けに「こんな時どうする？」というテーマで関わり方について実施した。
- ・ペアトレの内容については、町としてニーズは高いと感じる。保育士は多忙のため研修に出にくいという現状があることを考えるとペアトレの内容を保育者向けにオンデマンド配信するのはありだと思う。
- ・町でペアプロを実施したことがあるが、やはりペアトレはハードルが高い。今後の関わりが無いとその場限りの講習会のようなもので終わってしまう。半年後にアンケートを実施してみるのはいかがでしょうか。町としては保育士さんにペアプロを運営してもらうなどの取り組みも行なったことがあるが、継続が難しく上手くいかなかった。
- ・今回ペアトレの対象になった子はことばのやり取りができるグループで、他のグループでペアトレを実施するとなると難しい。また、ペアトレのプログラムを進めていく中でファ

シリテーターが子どものことを知っておかないと個別の対応方法を取り上げることも難しい。ペアトレのプログラムでもある「褒める」という事などの基本的な子への関わり方については3歳児健診などの場を使って、一般の人たち向けに伝えるのは良いと思うが、難しい保護者の場合は理想的なことだけ言われても逆に厳しい面もある。

- ・保護者支援については各市町で既にペアトレの要素（コアエレメント）を取り入れた療育を行なっている。ただ、国への報告の中に「ペアトレを実施しているか」という項目があるため、コアエレメントを全てを取り入れていないとペアトレを実施していないという評価になってしまう。このような現状を考えると国はペアトレと呼ぶのか呼ばないのかにこだわっているように感じる。各市町がどのような形でペアトレの要素（コアエレメント）を取り入れているのかを把握してほしい。その上で足りていない部分を補うというのではだめなのだろうか。

第6章 ペアレント・トレーニング実施検討市町へのアドバイザー派遣

滋賀県発達障害者支援センターでは、家族支援普及アドバイザーに就任いただき、各市町からの要請により、市町を訪問しペアレント・トレーニングの実施、推進に関する助言を行っている。今年度は1市町からの要請により、アドバイザーを派遣した。

6-1 R町へのアドバイザー派遣

日時：2023年12月15日(金)14:30～16:30

会場：R町公民館

派遣：家族支援普及アドバイザー・県センタースタッフ

目的：R町で行われている発達支援、発達相談にかかる啓発事業としての発達支援講座
演題「成人期を見据えた乳幼児期の大切な関わり」

対象者：町民及び町内保育園の保育士ならびにこども園、小・中学校の教諭等

6-2 アドバイザー派遣後の動き

担当者からは、来年度4月以降ペアレント・トレーニングの事業化に向けた動きを始めているとのことだった。

第7章 ニーズ調査

7-1 ニーズ調査の概要

7-1-1 目的

- ・県内でペアレント・トレーニングを普及するために、ペアレント・トレーニングについての周知と、子育て支援に関する保護者のニーズを把握し、保護者がより参加しやすい運営の方法やプログラムの検討に反映させること

7-1-2 調査方法

- ① 対象 県内各市町の療育教室、児童発達支援事業所を利用している保護者及び、発達相談を受けている保護者
- ② 期間 令和5年8月1日～9月30日
- ③ 方法 Google Form を活用した無記名、選択式と自由記述での回答によるアンケート調査

7-1-3 回収結果

- ・19市町中、15市町180件の回答

7-1-4 主な調査内容

- ・回答者の基本情報（アンケートの配布元、回答者の属性、家族構成、親の就労状況）
- ・子育てに関する学習会について（実施形態、場所、学びたい内容）
- ・子育てに関する相談について（相談したい内容、相談対象・機関）
- ・ペアレントトレーニングについて（認知度、受講希望とその理由、参加後の変化）

7-2 調査結果

7-2-1 回答者の基本情報

①居住市町

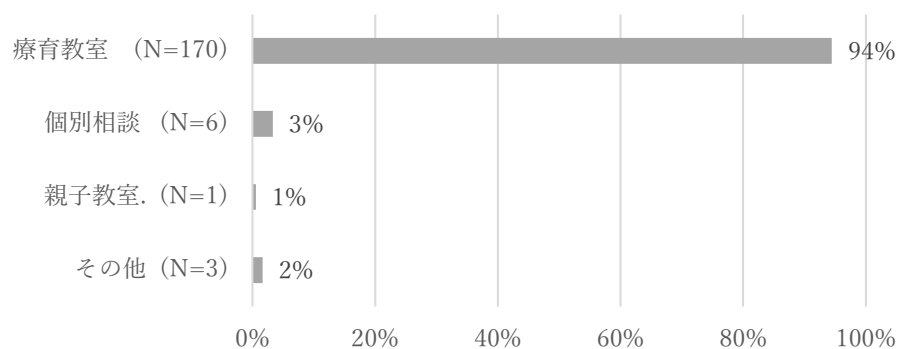
・県内19市町のうち、15市町から180名が回答（有効回答率100%）

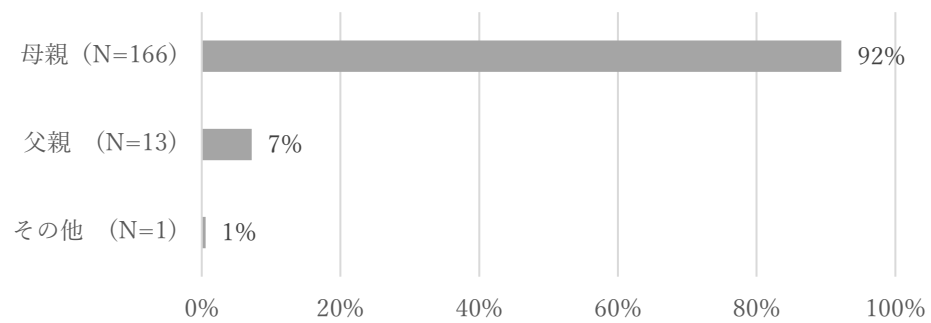
大津市	4
草津市	16
守山市	2
栗東市	1
野洲市	1
甲賀市	0
湖南市	4
東近江市	31
近江八幡市	17
日野町	7
竜王町	0
彦根市	22
愛荘町	6
豊郷町	2
多賀町	2
甲良町	0
米原市	0
長浜市	61
高島市	4
合計	180

②アンケート配布元

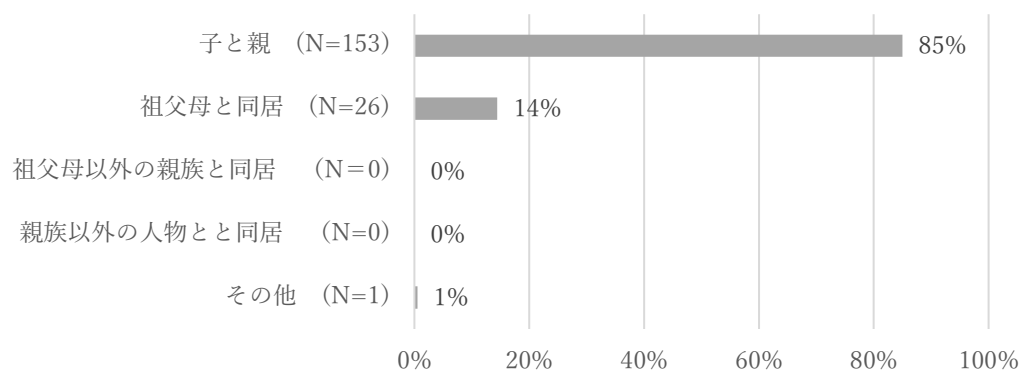
・主な回答者は、療育教室に通所する保護者であった

③回答者の属性





④家族構成



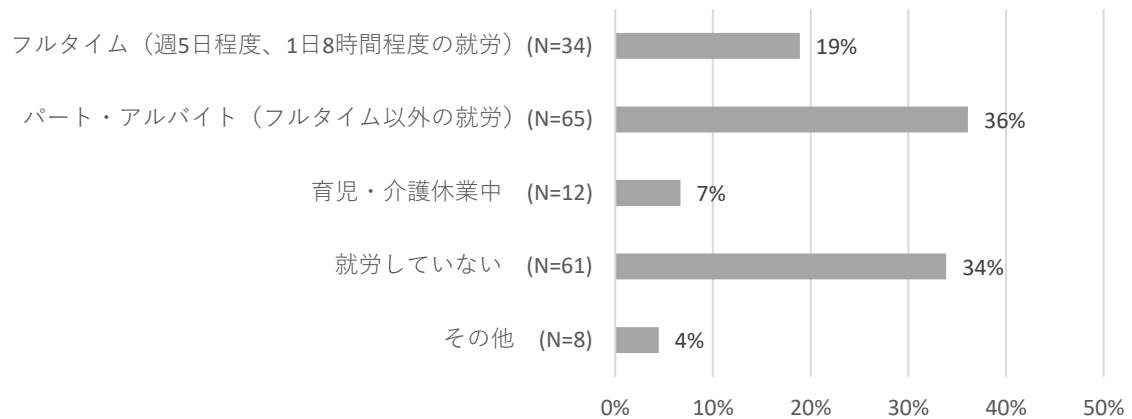
⑤子どもの人数と年齢

子どもの人数	1 人	2 人	3 人	4 人	5 人
(人)	68	81	27	3	1

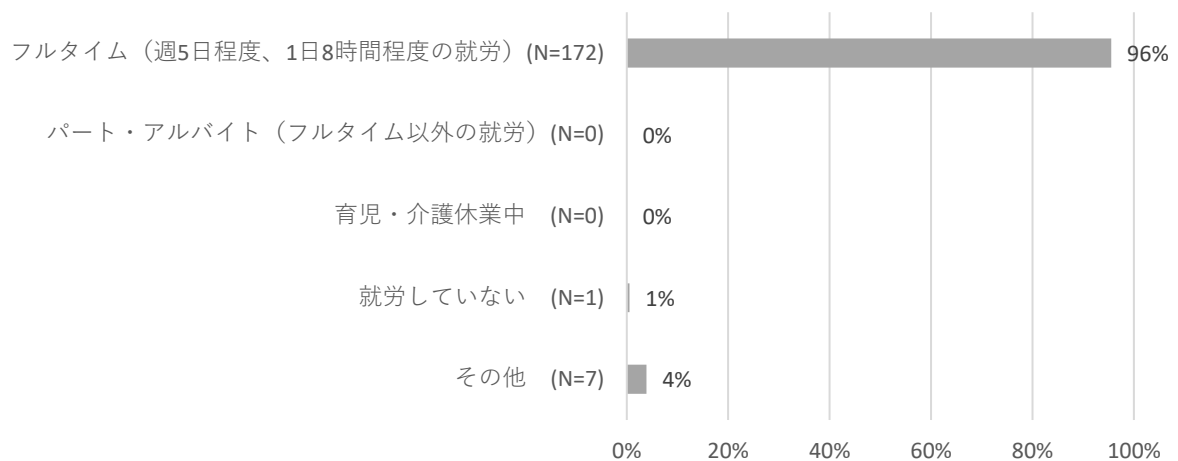
子どもの年齢	平均値	最頻値	最大値	最小値
(歳)	4.97	5	23	0

⑥親の就労状況

・母親

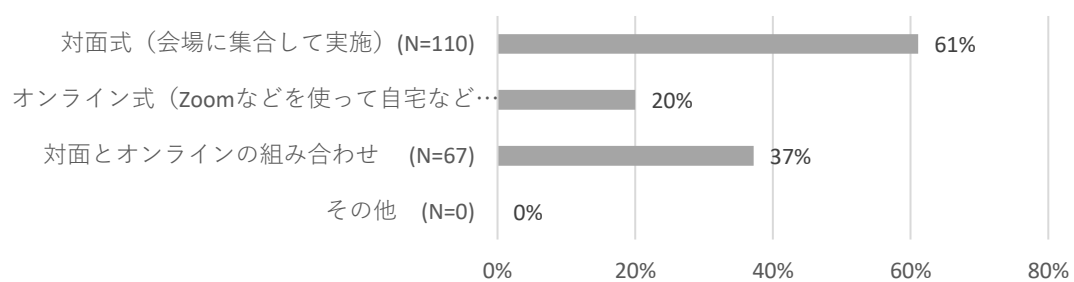


・父親

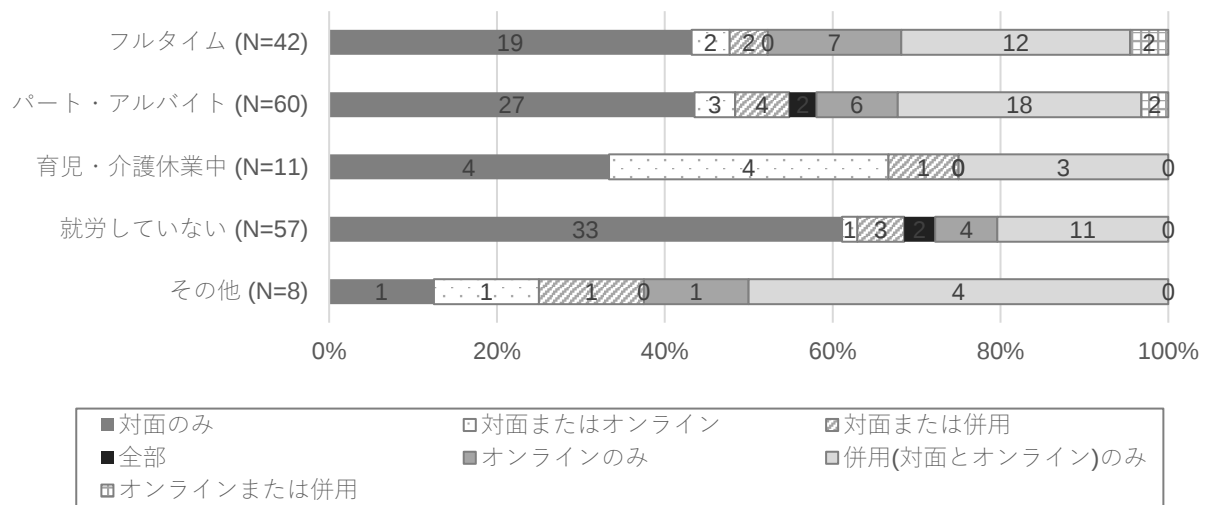


⑦子育てに関する学習会についてのニーズ

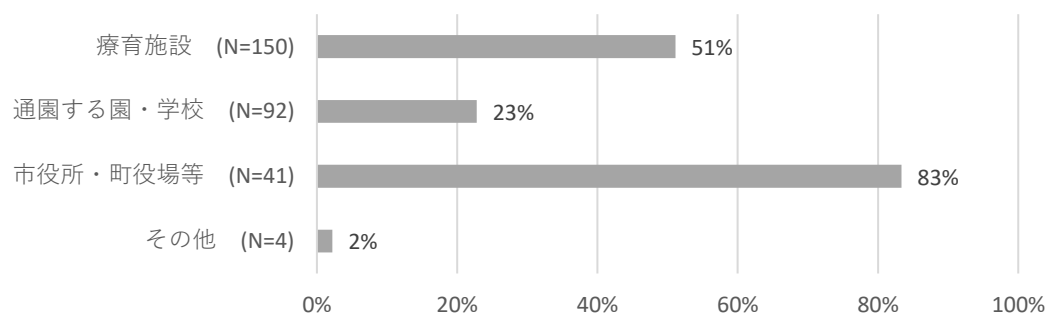
(I) 実施形態（複数回答可）



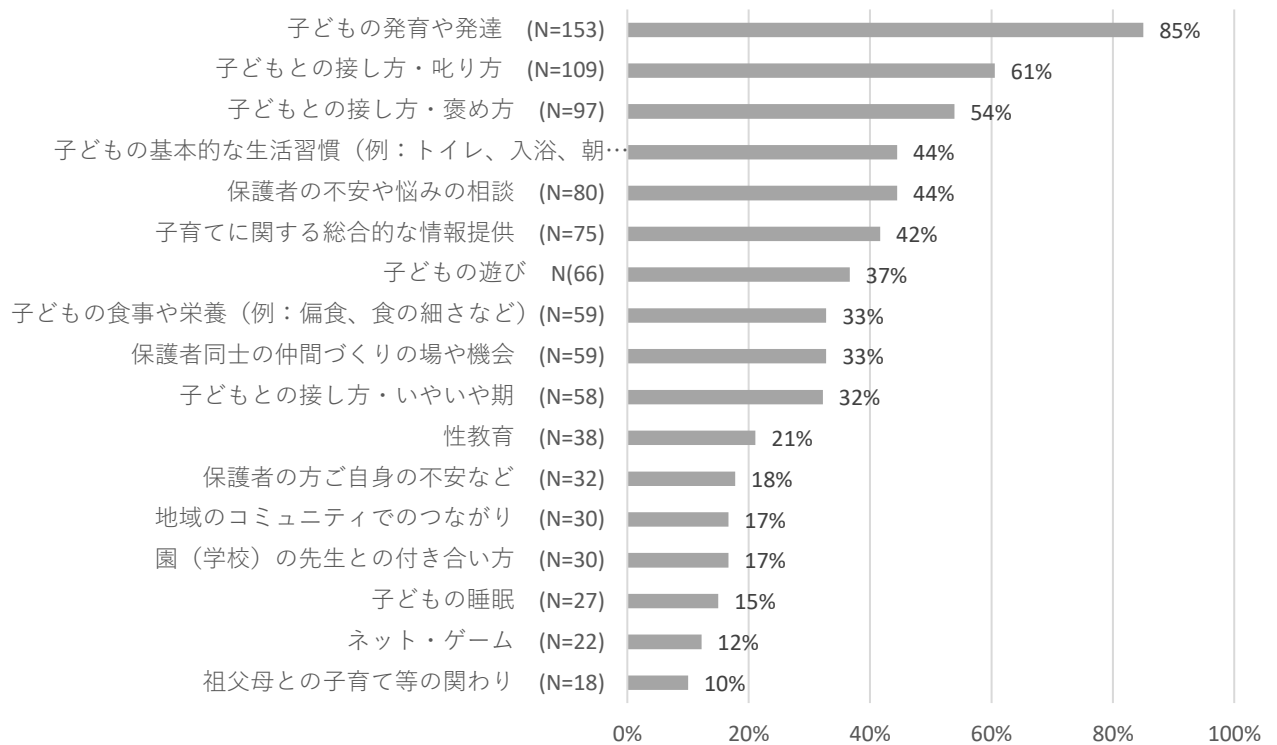
(2) 回答者の就労形態と希望する実施形態の関連



(3) 実施場所(※複数回答可)

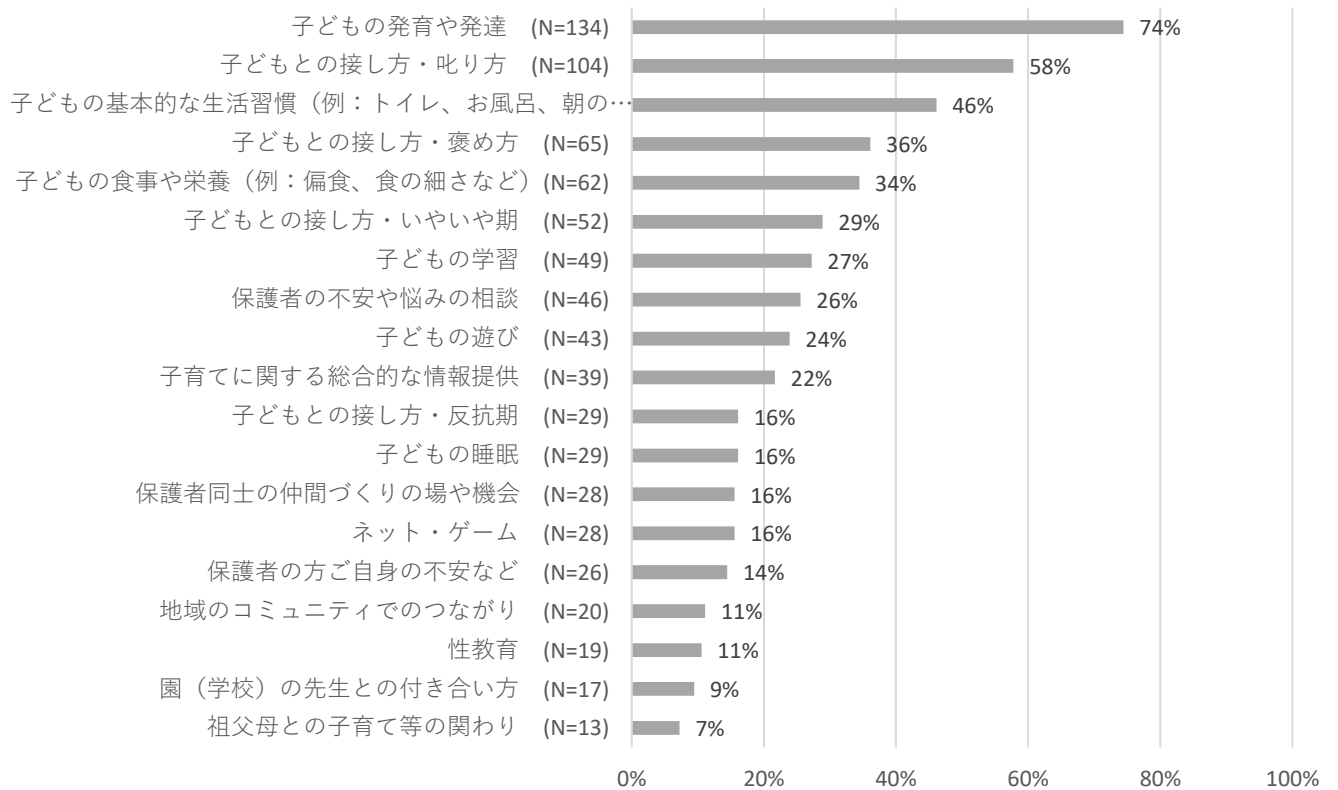


(4) 学習会で学ぶ内容として興味・関心があるもの(※複数回答可)

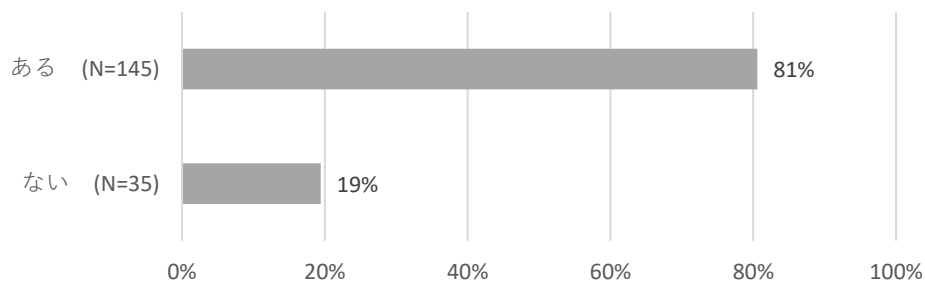


⑧子育てに関する相談についてのニーズ

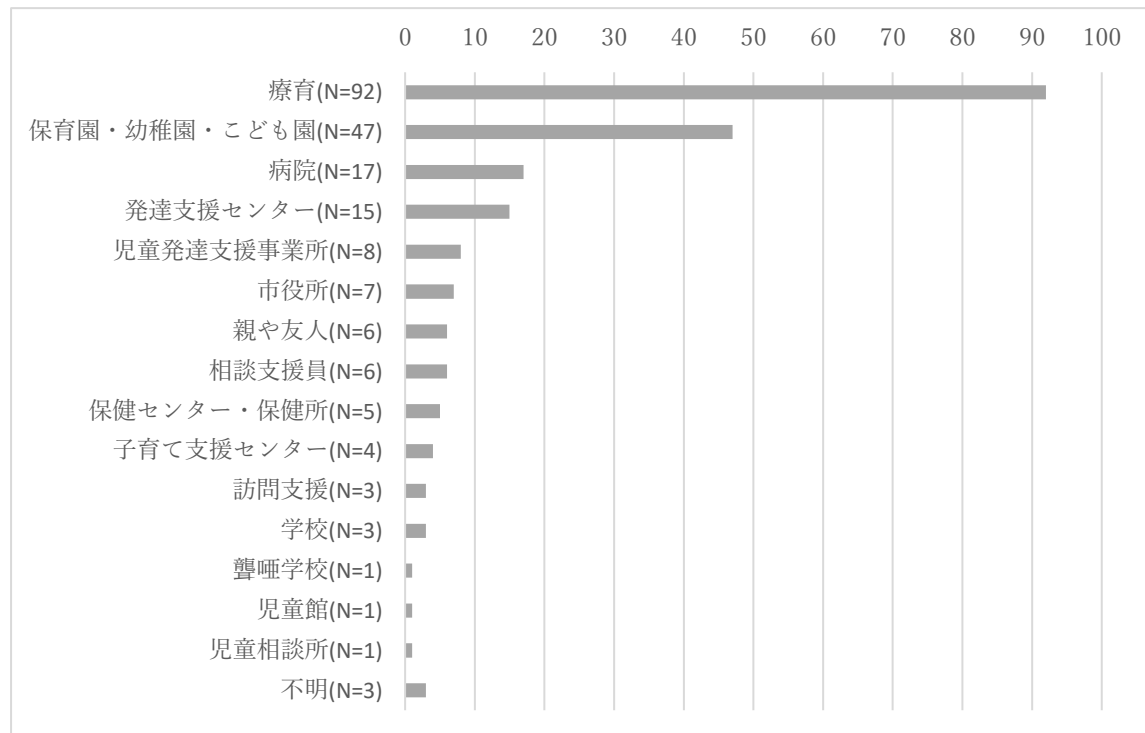
(1) 現在、相談したいこと・困っていること(※複数回答可)



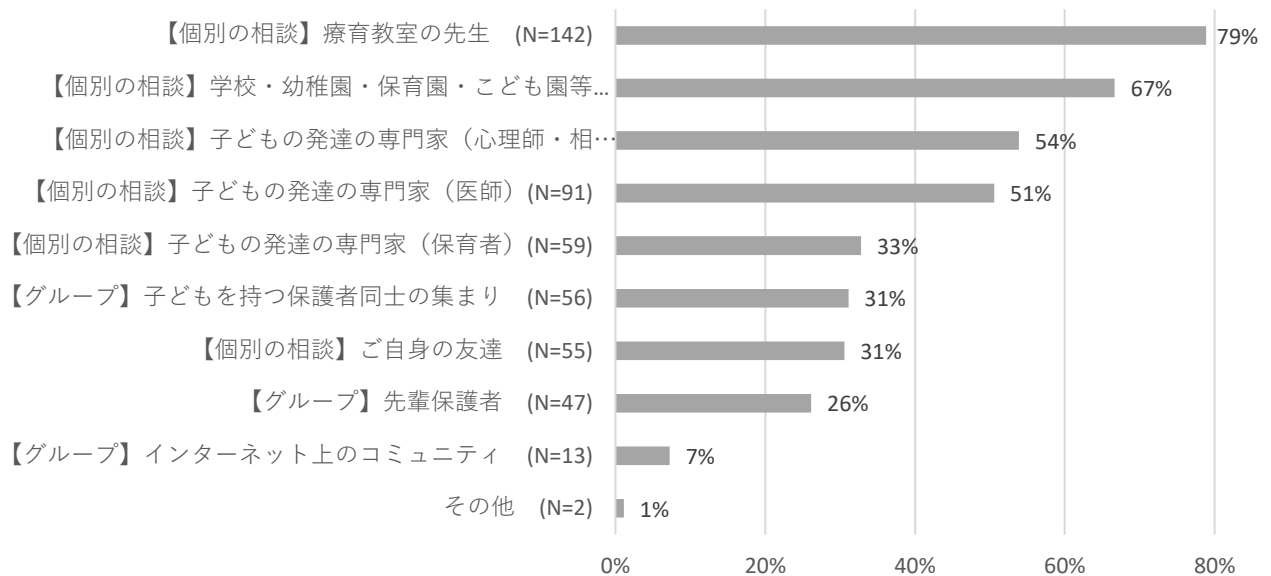
(2) 相談する対象・機関の有無



(3) 現在、相談している対象・機関（複数選択可）

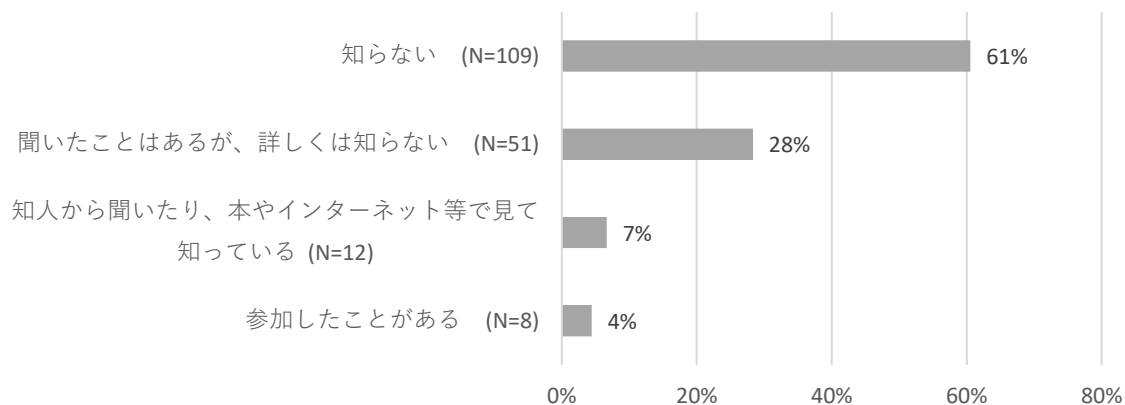


(4) 今後、相談したい対象・機関

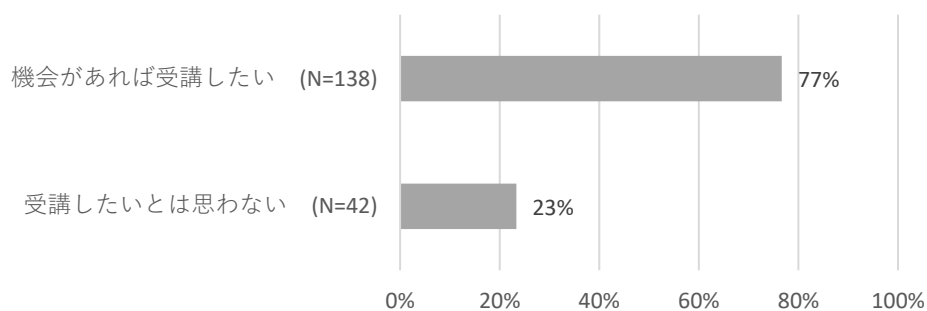


⑨ペアレント・トレーニングについて

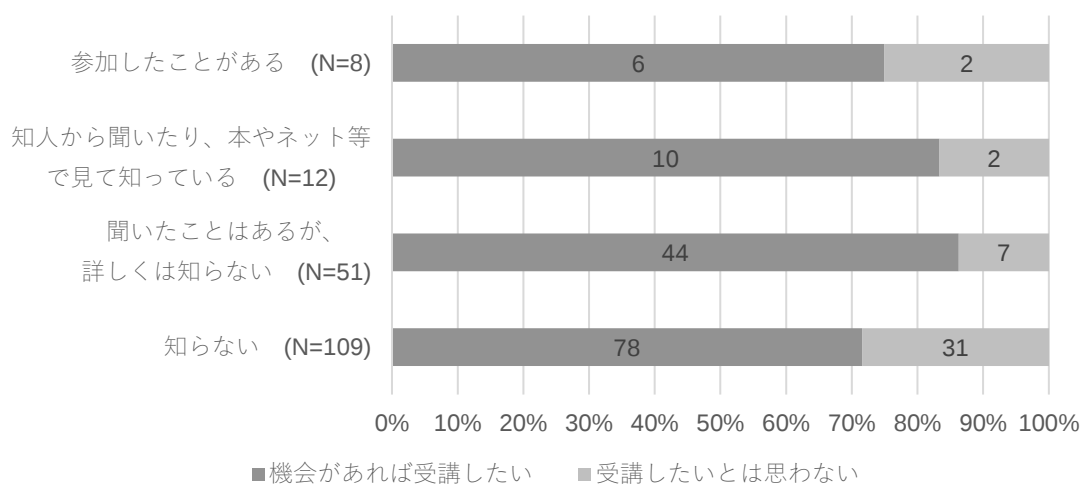
(1) 認知度



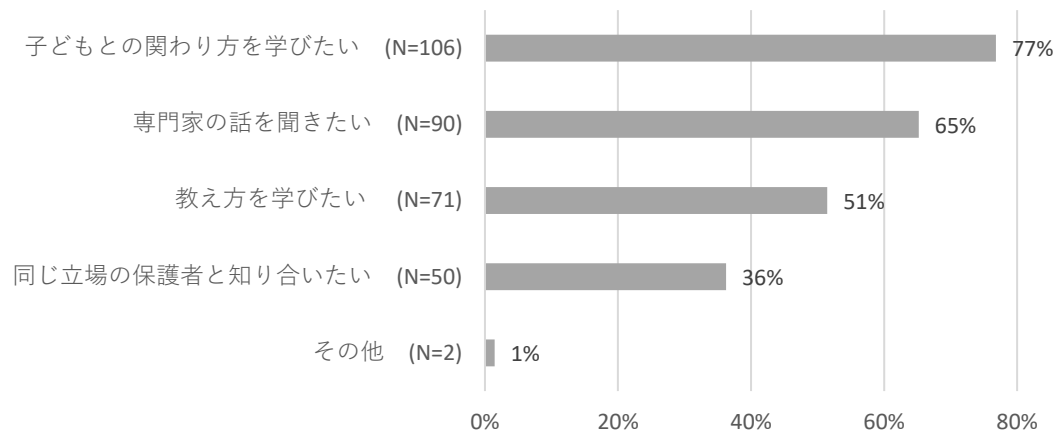
(2) 受講希望の有無



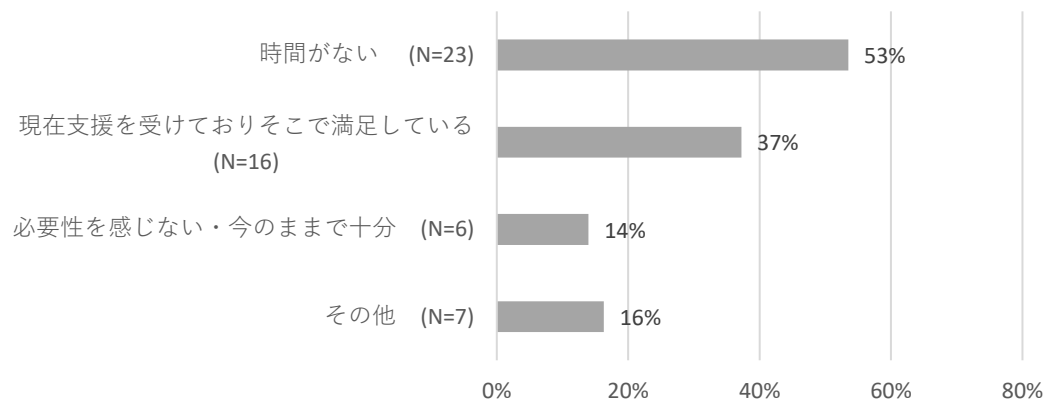
(3) ペアレント・トレーニングの認知度と受講希望の有無の関連



(4) 受講したい理由



(5) 受講したくない理由



(6) 参加経験者の感想、子どもや親自身の変化



7-2 ニーズ結果のまとめ・考察

本調査は療育教室に通室している子どもを持つ保護者を対象として行われたものである。その対象者の現状やニーズを反映している結果である。

〈現状〉

基本情報から、核家族がほとんどを占めている中で、母親の約半数が育児休業中も含め就労している状況がある。その中でも療育教室に通室していることから、子どもへの支援の必要性を感じている対象であることが分かる。(3)-②、③、(4)-⑤の回答より、現状の市町の療育教室を中心とした支援で保護者が相談・支援に充実していることが伺える。

ペアレント・トレーニングに関しては、認知度はまだまだ低いことが分かった((4)-①)。認知度は低いながらも、子どもや自身の子育てのためになるものであれば受講したいという希望も多い((4)-②)。さらに、参加した経験のある保護者は再度受講したいという希望も見られ、ペアレント・トレーニングはニーズがあると考えられる。

〈課題〉

ペアレント・トレーニングに関して、認知度が低く、受けられるサービスの選択肢に入っていないことは課題であるが、この2年でペアレント・トレーニングを実施する市町が増えたことで、認知度も徐々に高まっていくことが期待される。その際に、正確なペアレント・トレーニングの内容を知ってもらう必要があると考えられる。

また、(4)-⑥よりペアレント・トレーニングに参加することによって、子どもへの理解が深まっ

たり、相談できる仲間が増えた、といった保護者の知識やコミュニティづくりについて肯定的な変化が見て取れる。一方で、「子どもの困った行動が減った」、「子どものできることが増えた」といった子どもの具体的、肯定的な変化はない。ペアレント・トレーニングの内容については、それぞれの市町の目標によって異なるため、すべてのプログラムで子どもの具体的な行動を目標としているわけではない。しかし、保護者の得られた知識によって子どもが肯定的に変化することで保護者自身の自信にもつながる。各市町のプログラムで子ども・保護者のどの変化を目的とするのか、また、参加者は何を望んで参加するのかといったことは継続的に検討する必要があると考えられる。

〈今後の発展〉

(3)-④より、今後相談したい対象として、療育教室の先生に次いで学校・園の先生が挙げられている。日々の子どもの姿をよく知っている身近な存在である先生が相談先としてのニーズが高いことがわかった。ペアレント・トレーニングについての基本的な知識は、保護者に限らず先生方も共有することで、より子供への支援の充実、保護者の子育ての支援の拡充につながる。今後は、学校・園の先生も共同でペアレント・トレーニングに取り組める仕組みづくりも検討したい。

保護者の就労のため、多くの希望者が参加しやすいペアレント・トレーニングの開催時間や場所等の設定が今後の課題となると考えられる。ペアレント・トレーニングは参加者同士で子どもへの理解を共有しあい、それぞれのかかわり方を知る機会である。一方で、(4)-④では、「子どもとのかかわり方を学びたい」が最も多く、「同じ立場の保護者と知り合いたい」は最も少なかった。学習会の実施形態でも対面式と対面とオンラインの組み合わせを含めた形態ではほぼ同数の希望があった((2)-①)。こういった現状から、参加者のニーズの視点から考えると必ずしも対面だけではなく、オンライン式の実施形態での実施であっても家族支援として一定の効果を期待できることが予測される。

オンライン式の実施では、実施者側の課題や対面とは異なる難しさがあることも考えられるが、必要な支援へのアクセスのしやすさ、また支援者とつながる肯定的な経験を保護者に届ける方法の一つとして前向きに検討していきたい。

第8章 今後の方向性について

8-1 ファシリテーター養成研修、フォローアップ研修、ニーズ別研修の実施

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修・フォローアップ研修及びニーズ別研修を引き続き実施していく。市町が担当者の育成をするには、もうしばらく時間が必要であり、まだ実施していない市町に対しても、お互いの市町の状況を知り、意見交換ができる場として貴重な機会であると考えている。また、今年度好評であったニーズ別研修も、各市町担当者のニーズを把握したなかでテーマを設定し、研修を実施することで、それぞれの担当者が不安の中で実施しているペアレント・トレーニングを、自分たちの実施方法の確認や悩みを解決する研修と位置付け、提供していきたいと考えている。

8-2 ペアレント・トレーニングのオンライン研修実施に向けた検討

今年度のニーズ調査結果から、次年度オンライン研修の実施を検討する。その実施方法は、今後の検討段階ではあるが、オンライン研修に一定のニーズがあることも調査結果から読み取れるため、県内全域を対象とした研修とする。このオンライン研修を実施した結果により、人口規模の小さな市町でなかなか実施できないペアレント・トレーニングを県センターが主催で実施していくことができるのではないかと考えている。

8-3 市町が継続的にペアレント・トレーニングを実施するために

市町がペアレント・トレーニングを継続的に実施するために必要なサポートが必要なのかをまとめていく。その一つとして、ニーズ別研修の実施や引き続きのファシリテーター養成研修などもあると思われるが、それ以外に県センターがサポートできる部分がどこなのかを明らかにしていくことで、ペアレント・トレーニングを実施した市町が継続していくことの一助となると考える。

付録 ニーズ別研修資料

A市のPT実施状況

20231130研修会資料①

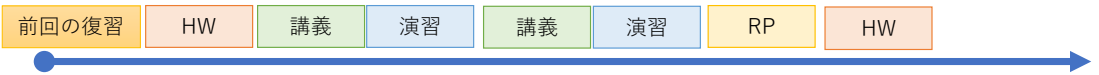
目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）→今後の展開、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる
うまくいっている点	講義で学んだことやHWを実施したり、ペアトレで学んだ内容を家庭で取り組んだことで良いサイクルになった。ホワイトボードの活用：一目で今日やることはわかるような内容。
改善したい点・課題	保護者が解決を求めてくる。例えば、例をした時に「これっていいんですか」と聞かれるため回答に悩む。 募集対象（今回の場合だと、金曜日の午前中で保護者が仕事をしている関係などであまり集まらなかった。）
実施状況	1回90分×6回、頻度：隔週（平日AM） 参加者人数や特長：療育、知的遅れ無し4・5歳（第1クール） 療育なし、発達相談・一般相談、4名（第2クール） HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし（ペアトレ研究会） 評価：あり・なし（ペアトレ研究会） 子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 A市

20231130研修会資料②

コト	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロークンレコード	計画的無視・待って褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	プレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
御向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



B市のPT実施状況

20231130研修会資料①

目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる ←子どもが主体（子どもの「やりたい」「ねがい」を支える）
うまくいっている点	・ホワイトボードの使い方をあらかじめ計画している ・終了したらスタッフ間でチャットでやり取り・本の貸し出し・スタッフ用資料作成 ・HWを最初から導入しなかったり、少人数でスタートを切ったことでリラックスして参加している保護者が多い ・スライド（テキスト）作成のために担当者が話し合いをすることが増え、大事にしたい点を共有できている
改善したい点・課題	参加者4人と少数のため、GWを画期的に進行できない時がある 情報提供とGWの比重や、時間構成について工夫が必要（マンネリ化する） 取り上げるテーマの順番は検討が必要
実施状況	1回 10:00～11:45 105分×5回、 フォローアップ1回 頻度：月1回 参加者人数や特長：4名 5歳児一人は支援級入級 行動面の対応で難しい子 HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし 評価：あり（アンケート事前事後）・なし 子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 B市

20231130研修会資料②

コア	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整（6回）	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義・	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロークンレコード	計画的無視・待つ・褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション（3回目）	サポートブック	その他
	般化	ブレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識（2回目） 5回目：成長に伴って必要な力	発達障害の特性に関する知識（気になる姿の背景を知る） （感覚過敏・こだわり4回目）	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
観向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



C市のPT実施状況

20231130研修会資料①

目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる、 環境調整、子どもの見方が分かる
うまくいっている点	保護者の捉え方の変化。仲間づくり。療育の方が対象の時は、個別の対応が必要な時にフォローしやすい、またGWに慣れている方も多いためやりやすい。
改善したい点・課題	募集対象（仕事をしている保護者、託児が必要だが出来ないなど最近では託児がいらない方を募集。） 安定した実施のために場所や対象の選定。 事前情報のつかみ方（同じ園・同じクラスの保護者が被った時はドロップアウトした方もいた。）
実施状況	1回90分×6回、頻度：隔週、参加者人数や特長：前期…療育通所・後期…ことばの教室（発達傾向のある方）3～6名 HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし 評価：あり・なし（PSI、事前・事後）子どもの記録：あり・なし 5回目にはストラテジーシート作成

・プログラム内容 C市

20231130研修会資料②

コン	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）→参加保護者によって柔軟に対応	不適切な行動への対応
コン	行動の定義	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方→出来ている行動、出来そうな行動などのタイプわけ	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロークンレコード	計画的無視・待って褒める→こっち中心	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	ブレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
発達	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
個別	ストレスマネジメント	個別相談（虐待、アンガーマネジメント）	マインドフルネス			

・1回あたりのプログラム構成



D市のPT実施状況【保護者学習会】

20231130研修会資料①

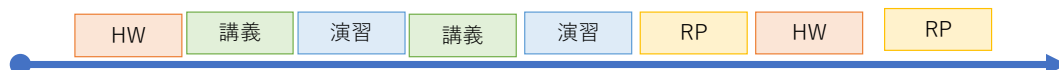
目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる 子どもの視点に立ち戻る、「D方式」、親同士のつながりを作る、親の孤独感を作らない
うまくいっている点	職員用の資料を作成 保護者に合わせての情報提供。親同士の横のつながり。
改善したい点・課題	やりっぱなしにならないよう評価尺度を丁寧にしていきたい。
実施状況	1回10：00～11：45 105分×5回、頻度：1回/2W 2か月後にフォロー、年に3クール 思春期2回 参加者人数や特長：3～5人 子ども発達センターで会っている保護者 （GWでは今、保護者が出来ていることを認める） HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし 評価：あり（事前・事後）・なし 子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 D市

20231130研修会資料②

コア	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ （情報提供：以前やっていたがテキスト変更時にやめた）	環境調整 （3回目に実施）	子どもが達成しやすい指示 （CCQ情報提供）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義・	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブローケンレコード	計画的無視・待つ・褒める	叱り方 （望ましい行動を示す）	トークンシステム （情報提供）	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	ブレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識 （2回目：子どもの視点に立ち戻ってもらう） （5回目：子どものタイプ別に今後のかかりについて）	発達障害の特性に関する知識 （4回目：感覚過敏・こだわり・くせ）	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
親向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



E市のPT実施状況

20231130研修会資料①

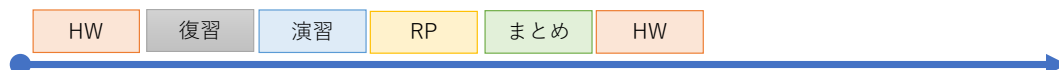
目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる
うまくいっている点	
改善したい点・課題	HWの扱い方（集めるのか、チェック、コメントなどか） テキストの渡し方 託児について
実施状況	1回90分×5回、頻度：2週間に1回 参加者人数や特長：3～5歳 発達相談歴あり、療育なし、7名 HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし 評価：あり・なし（事前・事後 ペアレント・トレーニング評価ツール 短縮版）毎回アンケート 子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 E市

20231130研修会資料②

コト	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロークンレコード	計画的無視・待って褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	プレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
御向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



F市のPT実施状況

20231130研修会資料①

目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（国・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる
うまくいっている点	1回目は座学（「ほめる」はテーマ。この参加のみOK）。 ペアレントメンターさんに入ってもらい、うまくいかないときにどう気持ちを立て直したかなど、話しをしてもらった。スタッフ用資料作成。 毎回10名～15名程度の参加申し込みがある。アンケート結果は改善やポジティブな反応がほとんどである。
改善したい点・課題	HWのための根本となる理解（行動でみるなど）が短い時間では難しい場合がある。スタッフの個別フォローが必要。 HWのGW（シェア）の時間配分に苦慮するグループによって盛り上がりも違う。 ペアレントメンター事業とうまく絡めて展開していきたい。 コアエレメントーかなり特性の強い子にとっては、他の親御さんと着地点が異なる。
実施状況	1回120分×3回、頻度：隔週 参加者人数や特長：10～15人 1回目は座学：2Gに分けてスタッフ3名 8割は幼児期の相談歴のある人、中学生までを対象。参加は3年生くらいまで。 HW：あり・なし テキストの使用：あり・なし 評価：あり（事前・事後：テーマごとに絞って1回ごとに答えてもらえるような質問。個人内での変化がわかる）・なし 子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 F市

20231130研修会資料②

コン	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整（2回目）	子どもが達成しやすい指示（CCQ）（3回目）	不適切な行動への対応
コアエレメント以外	行動の定義・	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロックンレコード	計画的無視・待って褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム（個人差が大きいので入れていない）	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム（親のフォローが難しいため入れていない）	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	ブレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	国・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
親向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



G市のPT実施状況

20231130研修会資料①

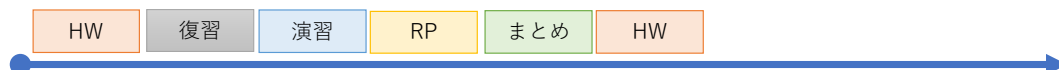
目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園・学校）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる
うまくいっている点	HWがあることで生活の中で講義内容の定着に役立っている。部分的に意識してくれる。
改善したい点・課題	プログラム構成の仕方。（1回の時間が短い） 同じグループ内での保護者での差。（HWが上手くできない保護者が自信を無くす） 保護者により理解のスピードの差。
実施状況	1回45分×9回、頻度：月1、参加者人数や特長：虹グループ（知的遅れなし、発達相談5歳）、4～6名程度×3グループ HW：あり・なし テキストの使用 あり・なし（ペアトレ研究会、資料のみ）評価：あり・なし（子SDQ、親PLPS、肯定的養育否定的養育評価尺度 購入済み）子どもの記録：あり・なし

・プログラム内容 G市

20231130研修会資料②

コ	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コ	行動の定義	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブロークンレコード	計画的無視・待って褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	プレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	きょうだいへの対応	進学について
親向け	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



H市のPT実施状況

20231130研修会資料①

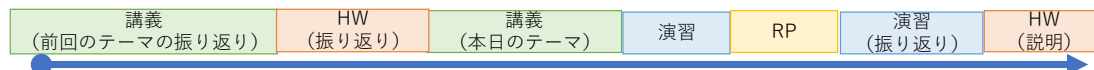
目的	発達障害児支援 ○継続性（1回きりで終わる事の多い発達相談で支えきれない部分を補う） ○ピアサポート（グループワークの時間を設定し、同じ悩みを持つ保護者同士が会える場作り） ○PDCAサイクル（毎回、保護者が講義内容を基に宿題に取り組み、講義内で宿題内容を共有、その後スタッフがコメントを記入して保護者に返却する事で、生活の中での実践サポート） ○啓発（校園でのサポートブックの共有等をととして、参加保護者のサポート）
うまくいっている点	○保護者同士の関係づくり ○保護者の子どもを捉える視点の変化→肯定的な注目の増加により、親子関係の改善
改善したい点・課題	○個別の配慮や支援が必要な保護者へのフォロー ○ペアレント・トレーニングを勧める保護者の選定
実施状況	1回120分×7回（うち1回はフォローアップ）頻度：月2回 参加者人数や特長：当課での相談歴、支援歴のある方。相談員が紹介する。HW：あり テキストの使用 あり（当課オリジナル） 評価：なし（アンケート） HWでの子どもの記録：あり

・プログラム内容 H市

20231130研修会資料②

コア	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプ分け	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義	子どもの目標行動の立て方	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）	警告・タイムアウト・罰	ブローケンレコード	計画的無視・待つ・褒める
	親子タイム	サポートブック	視覚的支援・補助代替コミュニケーション（一部）	上手な約束（一部）		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方			
傾向	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



I町のPT実施状況

20231130研修会資料①

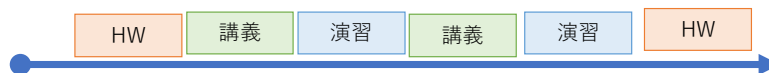
目的	発達障害者支援、母子保健（子育て支援）、児童虐待防止、教育（園）分野 子育て不安が減る、子育てに自信が持てる、子どもと関わりを楽しむ 子どもの笑顔が増える、親自身の笑顔が増える 不安や困りごとを話せる仲間ができる、話すことでストレス発散できる 子どもの行動や特性の理解が深まる、子どもへの関わり方や声かけの仕方がわかる 子どもの困った行動が減る、子どもが自分から行動できるようになる 子どものできることが増える、子どもが落ち着いて過ごせる
うまくいっている点	・少人数のため個別の質問などにも対応しやすい ・PT終了後も発達相談や園連携などの事後フォローを行うことができている
改善したい点・課題	・(改善点および課題)グループ人数をどのように増やしていくか
実施状況	1回60分×6回/頻度：隔週程度/参加者人数や特長：個別、2名(R5後期)、就学前が中心 HW：あり テキストの使用：あり/評価：あり/子どもの記録：なし

・プログラム内容 I町

20231130研修会資料②

コア	子どもの良いところ探し・ほめる	行動理解（ABC分析）	行動の3つのタイプわけ	環境調整	子どもが達成しやすい指示（CCQ）	不適切な行動への対応
コアエッセンス以外	行動の定義・	行動の記録の仕方	子どもの目標行動の立て方	個別課題の設定	課題分析・シェイピング・プロンプト	分かりやすい指示の出し方（CCQ以外）
	ブローケンレコード	計画的無視・待つ・褒める	叱り方（望ましい行動を示す）	トークンシステム	レスポンスコスト	警告・タイムアウト・罰
	強化・強化子	親子タイム	落ち着くヒント	視覚的支援・補助代替コミュニケーション	サポートブック	その他
	般化	ブレマックの法則	スモールステップ	上手な約束		
情報	発達に関する知識	発達障害の特性に関する知識	園・学校との連携の仕方	思春期の対応	※きょうだいへの対応	進学について
傾向	ストレスマネジメント					

・1回あたりのプログラム構成



J市

- 療育の中で実施するということが参考になったので考えていきたい。

【参考資料】

・『日本ペアトレ研究会 ファシリテーター養成研修事前課題』

一般財団法人信貴山病院ハートランドしぎさん 子どもと大人の発達センター 岩坂英巳

・『ペアレント・トレーニング実践ガイドブック』

作成：一般社団法人 日本発達障害ネットワーク JDDnet 事業委員会

協力：日本ペアレント・トレーニング研究会

・『ペアレント・トレーニング支援者マニュアル』

令和二年度障害者総合福祉推進事業「地域の発達障害者支援機関等で実施可能なペアレント・トレーニング実施テキストの作成」日本発達障害ネットワーク 事業委員会

2023 年度発達障害児者地域生活支援モデル事業

ペアレント・トレーニングファシリテーター養成研修事業 報告書

発行日 2024 年 4 月発行

発 行 社会福祉法人グロー(GLOW) 滋賀県発達障害者支援センター
南部センター(滋賀県草津市笠山 8-5-130 滋賀県医療福祉相談モール内)
北部センター(滋賀県彦根市日夏町堀溝 3703-1 平和堂日夏店 2F)